

# KIRAKIRA PRESS

吉良州司の「きらきら広報」  
www.kirashuji.com

CONTENTS

- 01 卷頭言 平成時代を振り返る
- 07 一生に一度だ! ラグビーワールドカップ 日本大会開催
- 09 消費税 政治家も国民も消費税から逃げてはいけない
- 11 北方領土問題の本質
  - 11-はじめに
  - 13-北方領土の歴史的経緯
  - 15-北方領土歴史秘話 1 ヤルタ会談の密約とその背景
  - 16-北方領土歴史秘話 2 ソ連による北海道分断占領と領有化の意図
  - 19-現実的解決策
  - 20-第二次大戦後のドイツ人の苦難
  - 21-北方領土問題の本質は先の大戦への深い反省
- 22 column1 平成から令和への御代替わりに思う
- 23 column2 子どもたちの誰もが愛情に恵まれる世の中にしたい
- 24 column3 天下の悪法 参議院定数6増法
- 25 写真でみる活動報告
- 29 column4 愛すべき我が父
- 31 文部科学委員会議事録

# 将来世代優先の国創り



2019.06  
Vol.18

KIRAKIRA  
PRESS

2019 Vol.18  
06 June

きらきら広報2019年 第18号 発行日:令和元年6月17日 発行者:吉良州司と元気な大分を創る会  
連絡先:〒870-0820 大分市西大道2-4-2 TEL 097-545-7777 FAX 097-545-7760 URL: http://www.kirashuji.com/ E-mail: kirakira@kuh.biglobe.ne.jp

《討議資料》

## 将来世代最優先の政治

# 一人ひとりが豊かさと幸せを感じられる社会へ

### 編集後記

本広報誌は、平成から令和への御代替わりを受けて、巻頭言の形で「激動が続いた平成の自分史」と「令和の時代への思い」を特集しました。この間、上皇陛下が発せられた数々のお言葉、特に、「戦争のない平和な国であり続けることへの切なる思い」は、多くの国民に共有されたと思います。特集「北方領土問題」も、「先の大戦への深い反省」こそ、その本質であるとの認識を示していますが、これも御代替わりだからこそ深く考えさせられたテーマでした。私個人としても、平成の自分史に加え、実弟・吉良卓司の執筆ながら、わが父の生き様にあらためて向き合う中で、来し方を顧みて、令和への思いを新たにすることができました。個人の経験談や思いが色濃い広報誌となっていましたが、読者のみなさんが平成を振り返り、令和に臨む思いを、再確認する契機となってくれれば幸いです。

### 吉良州司 1958年大分県生まれ

1964(S39) 大分市立津留小入学、別府市立南小、中津市立南部小卒業  
1973(S48) 大分市立城東中学校卒業  
1976(S51) 大分県立大分舞鶴高校卒業  
1980(S55) 東京大学法学部卒業。日商岩井入社(人事部、電力プロジェクト部)  
1984(S59) ブラジル留学(ジュイス・ジ・フォーラ連邦大学)  
1989(H元) 大分県出向(企画室、農政部、商工観光労働部)  
1995(H7) ニューヨーク(日商岩井米国会社。5年半勤務)  
2003(H15) 4月 大分県知事選出馬295,886票(有効投票数の44.8%)獲得も惜敗  
同年11月 無所属で第43回衆院選出馬(大分1区)初当選  
2005(H17) 第44回衆院選(郵政解散選挙)、2期連続小選挙区当選  
2009(H21)~2012(H24) 第45回衆院選、3期連続小選挙区当選。民主党政権下、外務副大臣、外務大臣政務官、拉致特別委員会委員長。民主党政調・外務部門及び防衛部門会議座長。2012年12月第46回衆院選落選。  
2013(H25) 政策研究大学院大学客員研究員  
2014(H26) 第47回衆院選、4期小選挙区当選。外務委員、地方創生委員  
2017(H29) 第48回衆院選、5期目当選(九州比例)。外務委員  
2018(H30) 国民民主党結党に参加。経済産業委員、文部科学委員

### PROFILE

商社勤務時代は主に電力プロジェクト部に在籍し、発展途上国を中心に電力プロジェクトを推進、アジアや中南米などへの出張を繰り返す。

5年半のニューヨーク駐在時代は月に2~3回中南米に足を運ぶなど、商社時代だけでも、アジア、欧米、中南米諸国46か国を訪問。ブラジル留学時代の南米南部2万キロの冒険バス旅行など、現場を歩き、自分の目で確かめることを重視する。

外務副大臣、外務政務官時代は、日米関係・日米同盟の強化等安全保障に力を注ぐ一方、経済連携の推進など経済外交を通して「日本と日本企業を元気にする外交」に注力。

### 事務局からのお知らせ

### 寄附のお願い

これまでに寄附を戴いた皆さんに、この場を借りて改めて御礼申し上げます。戴いた貴重な寄附は政治活動に有効に使わせて頂くと共に、全て政治資金規正法に基づき、選挙管理委員会に報告しております。初当選から16年が経ち、活動範囲も拡がり、それに伴う支出も増えてまいりました。何卒ご理解の上、ご協力戴きますようお願い申し上げます。尚、寄附は個人でも法人でも税額控除の対象となりますので、詳しくは事務局にご相談下さい。※政治資金規正法では外国人及び外国法人からの寄附を禁止していますので、ご了解下さい。

■大分銀行 本店営業部  
普通口座/6428365  
名義/国民民主党大分県第1区総支部 代表 吉良州司

■大分銀行 にじが丘出張所(個人向)  
普通口座/5081725  
名義/吉良州司と元気な大分を創る会 代表 吉良州司

■ゆうちょ銀行(個人向)  
記号/17260 番号/15330121  
名義/吉良州司と元気な大分を創る会



### 吉良州司事務所

〒870-0820 大分市西大道2-4-2

TEL.097-545-7777 FAX.097-545-7760

URL ▶ <http://www.kirashuji.com/>  
E-mail ▶ [kirakira@kuh.biglobe.ne.jp](mailto:kirakira@kuh.biglobe.ne.jp)

広報誌についてのご意見、お問い合わせなど、事務局までお寄せください。



平成の始まりは、内外ともに激動の1989年。天安門事件にはじまり、ベルリンの壁の崩壊、数年後にはソ連も瓦解して東西冷戦が幕を閉じます。国内にあっては、バブル閉じます。

### 激動の平成が始まる

私にとっての平成は、この故郷と世界を舞台として始まります。

愛情、愛着を強く持たせてくれた。した。

年配の方はよくご存じの番組ですが、私は、子供の頃、NHKの「特派員報告」と「新日本紀行」が大好きでした。見知らぬ外国には、どんな人たちがいて、どんな生活をしているのか、私の世界への好奇心を充たしてくれる「特派員報告」が大好きでした。また、奥深い農村を中心とする日本の原風景と、そこで暮らす素朴な人たちのありのままを伝えてくれる「新日本紀行」は、日本の原点である「故郷」への愛情、愛着を強く持たせてくれました。

平成元年1989年、私は故郷大分の舞台に立ちます。同年4月に総合商社・日商岩井から、自らつくりた制度で大分県庁に出向します。その発端は、日商岩井の若手有志による会社の改革運動でした。「コンセプトは脱藩」、「倜傥不羈（てきとうふき）」の精神（独立して束縛されること）を旗印に、ベンチャーの設立・経営など、一度、大組織から離れ、若手ながら独立して活動することを仲間と誓い合います。当時私は、バブル経済下の東京一極集中が、東京の活力も、地方の活力も奪っているとの危機感を強く持っていました。そこで、「方が元気でなければ、真に豊かな日本は築けない。自分を故郷大分の県庁に出向させてほしい」と、当時の速水優社長（後の日銀総裁）に訴え、当時の平松大分県知事に受入を要請し、故郷大分に飛び込みました。その当時の問題意識と意気込みを転任の挨拶文で次のように表現しています。

（締めの文省略）

平成元年4月 吉良州司

## 激動が続いた平成の自分史と

### NHK特派員報告と新日本紀行

年配の方はよくご存じの番組です

が最高潮に達した年ながら、2年後にはバブルが崩壊し、日本の経済社会は大混乱に陥り「失われた10年、20年」の停滞期に突入します。

### 平成元年を故郷大分で迎える

平成元年1989年、私は故郷大分の舞台に立ちます。同年4月に総合商社・日商岩井から、自らつくりた制度で大分県庁に出向します。その発端は、日商岩井の若手有志による会社の改革運動でした。「コンセプトは脱藩」、「倜傥不羈（てきとうふき）」の精神（独立して束縛されること）を旗印に、ベンチャーの設立・経営など、一度、大組織から離れ、若手ながら独立して活動することを仲間と誓い合います。当時私は、バブル経済下の東京一極集中が、東京の活力も、地方の活力も奪っているとの危機感を強く持っていました。そこで、「方が元気でなければ、真に豊かな日本は築けない。自分を故郷大分の県庁に出向させてほしい」と、当時の速水優社長（後の日銀総裁）に訴え、当時の平松大分県知事に受入を要請し、故郷大分に飛び込みました。その当時の問題意識と意気込みを転任の挨拶文で次のように表現しています。

### 東京一極集中の問題を憂える挨拶文

#### （冒頭挨拶文省略）

近年、日本経済の国際的地位が急速に高まり、金融・情報等の分野における世界の中心

としての役割が増大する過程で、東京圏への一極集中が促進されておりますが、この傾向は東京圏においては地価の高騰を生じさせ、「持たざる夢」にとつては「マイホームの夢」どころか「2DKの借家の望み」すら奪い去らんとしております。一方、地方圏においては円高・経済のソフト化に伴う急速な産業構造転換の過程で構造不況に陥り、雇用機会、所得の伸び悩み、若年労働力の流失等の諸問題が深刻化しております。（中略）私は、

大分県の地域振興政策を学びながら民間企業がどのような形でこれらの政策に協力できるのか自分なりの解答を見出したいと考えております。

### バブル期社会の矛盾への怒り

この挨拶文が示す社会的経済的情景こそ、後に政治の道を歩み始める重要なきっかけになります。バブル経済下、会社の同僚もみな「乗り遅れる」との思いからでしよう、都心から通勤に1時間以上かかる2LDK、5000万円、6000万円のマンションを競うようになります。バブル景気に振りまわされるから、こんな法外な値段に吊り上がりがつてしまふ。私は、「乗り遅れるだとか、みんな周りに振りまわされるから、こんな大きなマンションに一生かかるローンを払い続ける価値があるのか。冷静になつてみれば、そんな価値がないのがわかる。俺は絶対にそんな買い物ものはしない」とバブルの馬鹿々々しさを指摘し、そんな世の中の風潮に背を向けていました。

更に問題だったのは当時の不動産ビジネスです。不動産業 자체は重要な産業だと思っていますが、バブル熱狂下の不動産ビジネスは度を超えていました。多くの会社、いや都市部を本拠とする会社は例外なく、不動産を買い、その不動産の軒売利益や、不動産の含み益が決算上が次々と不動産を担っていました。会社が、会社は利益を得るが、社員は

## 平成時代を振り返る 激動が続いた平成の自分史と 令和時代への思い

みなさん、こんにちは。いつも吉良州司を温かくご支援戴き、深く感謝致します。

昨年から「きらきら広報」は、通じた広報誌として発行しています。本広報誌の内容は、昨年秋の臨時国会、今年の通常国会、および同期の日本の社会情勢がその中心となっています。北方領土問題、消費税、各種コラム記事、所属する文部科学委員会の議事録、写真で見る活動報告など、で構成されています。お時間の許す限り、目を通して戴ければ幸いです。

さて、この5月から令和の時代

が始まりました。みなさんは、どのよう平成時代を振り返り、どのよう気持ちで新しい令和の時代をお迎えになつたのでしょうか。

本巻頭言では、激動続きだった平成時代の自分の人生を、当時の世界や日本の動向を織り交ぜながら、振り返ります。平成前半は大分県庁出向からはじまり、会社の電力プロジェクト部に復帰してからニューヨークで駐在生活を送るなど、故郷大分と世界を舞台に、民間社会人としての人生を過ごし、会社退職後の平成15年の大分県知事選挙に出馬してからは政治の道を歩むことになります。







# 一生に一度だ! ラグビーワールドカップ 日本開催



## 激戦を勝ち抜いた20チームの熱い戦いが始まる

世界3大スポーツイベントの一つ、ラグビーワールドカップ(RWC)がまもなく日本で開催されます。世界96の国や地域を勝ち抜いた20チームが日本国内12会場で48試合の熱い戦いを繰り広げます。地元大分では世界のラグビーファンがうらやむ好カードが組まれています。特に収容観客数7万人を超える横浜で決勝、準決勝の3試合開催は当然として準々決勝4試合が東京と大分で各2試合開催されるのはまさに奇跡です。大分での開催と招致に尽力された関係者の方々に敬意を表します。(※3大スポーツイベント:サッカーW杯、オリンピック、ラグビーW杯)

一方、今回アジア初、日本でのRWC開催決定に至る過程では、重鎮の森喜朗元総理や遠藤利明元五輪大臣が主役であったことは勿論ですが、ラグビーが伝統の大分舞鶴高校出身の吉良州司も、初当選以来、超党派ラグビー議連に属し、野党の取りまとめ役として日本開催に尽力しました。

## 2大会同時決定で日本招致成功

下記(開催国)の通り、今回の日本大会以外は南半球とヨーロッパで交互に開催されています。アジア初の日本開催がなぜ実現したのか?それは2009年の総会で2015年と2019年の2大会が唯一同時に決定されたことが、交互開催にくさびを打ち、日本招致成功の大きな要因だったと思われます。  
吉良 卓司

### 開 催 国

第1回(1987年)	ニュージーランド、オーストラリア
第2回(1991年)	イングランド、フランス、ウェールズ、スコットランド
第3回(1995年)	南アフリカ共和国
第4回(1999年)	ウェールズ
第5回(2003年)	オーストラリア
第6回(2007年)	フランス
第7回(2011年)	ニュージーランド
第8回(2015年)	イングランド
第9回(2019年)	日本
第10回(2023年)	フランス



### 大分会場日程:予選3試合、準々決勝2試合

10月2日(水)	ニュージーランド(1位) vs カナダ(21位)
5日(土)	オーストラリア(6位) vs ウルグアイ(16位)
9日(水)	ウェールズ(2位) vs フィジー(9位)
19日(土)	準々決勝 ブールC1位 vs ブールD2位
20日(日)	準々決勝 ブールD1位 vs ブールC2位



プレゼン終了後、IRB幹部と談笑する吉良州司。このプレゼンから3ヶ月後の7月、第8回大会はイギリス、そして第9回大会が日本で開催されることが同時に決定されました。



日本開催の期待などを述べるIRB幹部。正面に森喜朗元総理、手前右が遠藤元五輪大臣、手前左が吉良州司。



2009年4月8日、国際ラグビー評議会(当時IRB・現ワールドラグビー)の幹部3人が来日し、日本からヒアリングを行いました。プレゼンは遠藤元五輪大臣、その右隣は吉良州司



RWC招致に向け、結束を固めるために2006年英國大使館チームと親善試合をし、試合後議連メンバーで記念撮影。RWC開催決定の時は、与党は森喜朗会長と遠藤元五輪大臣、野党は吉良州司が取りまとめの役割を果たしていました。

### ＜日本代表資格の条件＞について

- (1)日本で生まれた
- (2)両親、祖父母の誰かが日本で生まれた
- (3)日本に継続して3年以上住んでいる

他の国の代表歴がないことが条件で、上記3つのうちの1つでも満たせば代表資格を得ることができます。

### 日英親善試合(2006年)



ボールを持って走る。森元総理 森元総理、遠藤元五輪相、清宮元早大ラグビー部監督の顔も



後ろを走っている ボールを回してくれ! 高校・大学とラグビー部の私(卓司)も日英親善試合に参加 タックルに向かう 真ん中、前傾姿勢が吉良州司



政治家も国民も  
**消費税**から逃げてはならない

消費増税への立場の違い

本稿を執筆時点では、消費税が10%へと引上げられるのか、何らかの理由で再々延期になるのか、わからりません。野党も無条件に増税に反対する政党、消費税自体は否定しないが、景気の悪化局面での増税には反対する政党など、立場は各々違いますが、10月の増税はやめるべきとの主張では一致しています。

私は、予定通り増税すべきとの終始一貫した立場です。景気動向が判断条件となると、議論が百出し、結局常に問題を先送りしてしまいます。消費税は、子育て支援を含む社会保障財源ですから、国民のだれもが受益者です。それゆえ、政治家は決して逃げることなく、消費増税への国民の理解を求めるべきです。

増税すること、それも景気変動の影響が少ない消費税を増やすこと、及び、経済成長することです。経済成長すれば対GDP比の債務残高が小さくなると同時に、個人所得税収、法人税収が上がり、また、消費も活発になるので消費税収も上がります。アベノミクスの中身には疑問を持つていますが、この観点からの目的意識は理解で

低所得者対策

消費税率引上げによる低所得者対策については、詳細に説明する紙数がありませんが、「軽減税率」ではなく、格差是正のための低所得者優遇政策のひとつでもある「給付つき税額控除」が最も適しています。低所得者が収めたであろう消費税の全部または一部を現金で還付する制度です。

## 商社マン時代から消費税の必要性を力説

最後に政治家になる前からの消費税の必要性に対する信念についてお伝えします。

## 商社マン時代から消費税の必要性を力説

最後に政治家になる前からの消費税の必要性に対する信念についてお伝えします。

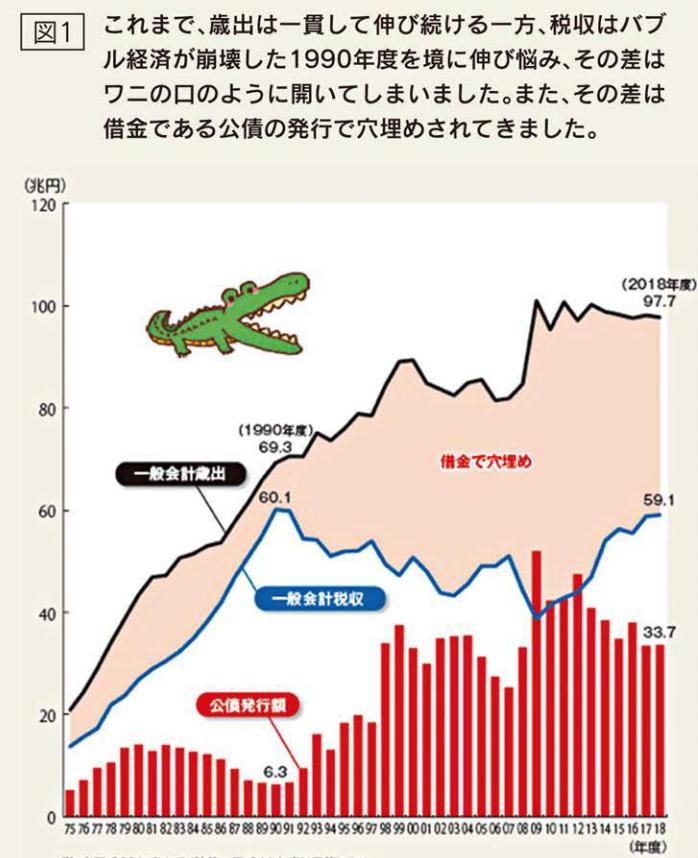
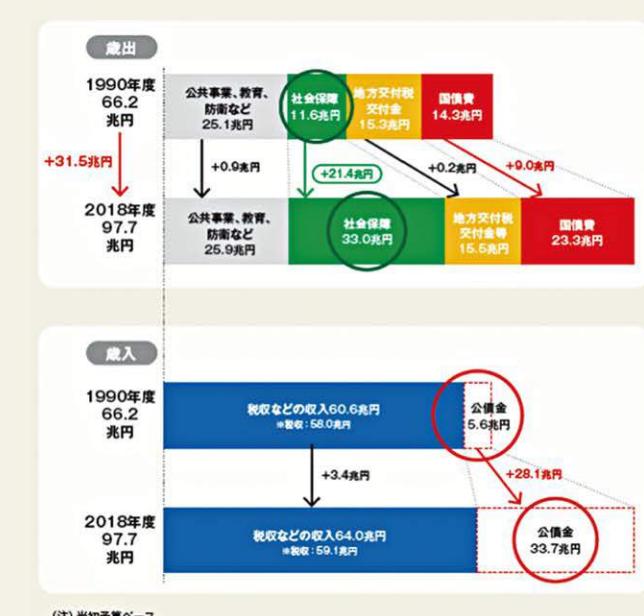
「最近の消費税論議を見てい  
ると疑問が湧いてきます。私は  
消費税を導入すべきとの意見  
です。免税品目など認めない単  
純明快な税にし、税率ももつと  
上げるべきだと思います。ご存  
じの通り、今、国債残高は  
160兆円(当時はなんとまだ  
160兆円でした)にも積みあ  
がつてあり、1家庭当たり  
600万円の子孫に対する借  
金です。

平成2(1990)年3月 大分県国見町の「国見町農業大会」で、大分県庁出向中の私が「国際化時代に対応した国内農業」と題した講演をします。その直前の参議院選挙で「消費税反対」が勢いを得ていた世情を憂える31歳の商社マンの訴えです。

まず左記講演録をお読みください。

## 財政健全化の具体的方策

財政不均衡の原因は明確なもので、財政健全化の方向性も明快です。収入を増やすことと、無駄な歳出、優先順位の低い歳出を削減す



3歳の若造商社マンの時代から、「子どもたち、将来世代が最優先」という考え方を持つています。そして、税の直間比率を見直して間接税（消費税）を増やし、財政を健全化しながら、将来世代の負担を軽減し、国際的な信用を得る。同時に、社会保障を充実させることで将来不安をなくすべき、と信じて疑いませんでした。

3歳の若造商社マンの時代から、「子どもたち、将来世代が最優先」という考え方を持つています。そして、税の直間比率を見直して間接税（消費税）を増やし、財政を健全化しながら、将来世代の負担を軽減し、国際的な信用を得る。同時に、社会保障を充実させることで将来不安をなくすべき、と信じて疑いませんでした。

私が政治を志した理由の1つは  
鬼ごっこをして遊んでいる間に、大  
人たちの借金の連帯保証人にされて  
しまっているのに、選挙権を持たな  
いため声をあげることのできない、  
子どもたち、将来世代の代弁者にな  
るためです。

政治家には不利な消費増税でも、  
子どもたち、将来世代のためなら、決  
して逃げることなく、訴え続けます。

同上

ローの面ではもっとも豊かだった」と言われるであろう時代を今生きていると信じています。それ故、今、余裕のある内に社会の借金を返しておくべきだと思うのです。親は本来、自分の皿に肉があつても、自分は我慢してそっと子供の皿に移すものだと思います。しかし、消費税議論を聴いていると、全くその逆で、自分はまだ腹が減っているからと、子供の肉を取り上げているとしか映りません。現在はフローの面では豊かですから、消費をするこ

ローの面ではもっとも豊かだった」と言われるであろう時代を今生きていると信じています。それ故、今、余裕のある内に社会の借金を返しておくべきだと思うのです。親は本来、自分の皿に肉があつても、自分は我慢してそっと子供の皿に移すものだと思います。しかし、消費税議論を聴いていると、全くその逆で、自分はまだ腹が減っているからと、子供の肉を取り上げているとしか映りません。現在はフローの面では豊かですから、消費をするこ

とは現在の経済活動を活性化すると同時に国家の借金を返していくことになります。それに私は選択肢の多い社会が本当に豊かな社会だと信じています。何処でどう使われるか分からぬのに選択の余地なく所得税でもつていかれるよりは、好きなものを買う為の一種のコストと考えられる消費税の方が目指すべき豊かな社会にはピッタリくると思うのですが。税金を払いたくなれば買わないという究極の選択だつてできるわけですから

た、目の前に迫る国後島の大きさが今でも忘れられません。「こんなに近いんだ」と衝撃でした。

余談になりますが、羅臼岳中腹のテントで食事をしていた時の事です。突然サーキュライトで照らされ、入り口を開けられました。「あっ、失礼しまし」た。実は、網走刑務所から極悪囚人が脱走しこの山に逃げ込んだので、今、斜里と羅臼から追い詰めているところです。是非、「協力ください」とのこと。「えつ、こんなことあるの。熊より怖い」と思いました。いざという時に備えながら、「こうなつたら北海道新聞に勇名をとじろかせよう」と友人と武者震いした思い出があります。

最も印象深かったのは島民1世の方々が「戦後70年が経ち、島は私たちにとっての故郷であると同時に、今そこで暮らすロシア人にとっても故郷なんです」「島は返還してもらいたいが、自分たちが島を追われた時の辛さを、今島に住むロシア人に経験させたくない」「日口住民はよき隣人として共存共栄しかない」とおっしゃっていました。

### ビザなし交流で国後・択捉島訪問

それから38年後の2017年7月、ビザなし交流で、国後島・択捉島を元島民とその子孫の方々などと一緒に訪れました。

方々が「戦後70年が経ち、島は私たちにとっての故郷であると同時に、今そこで暮らすロシア人にとっても故郷なんです」「島は返還してもらいたいが、自分たちが島を追われた時の辛さを、今島に住むロシア人に経験させたくない」「日口住民はよき隣人として

戦後74年が経ち、ロシア化が進む北方領土



▲ロシア人の子ども達。国後島ろうそく岩にて。

▼ロシア人のお母さんと幼児。国後島の公園にて。

た、目の前に迫る国後島の大きさが今でも忘れられません。「こんなに近いんだ」と衝撃でした。

余談になりますが、羅臼岳中腹のテントで食事をしていた時の事です。突然サーキュライトで照らされ、入り口を開けられました。「あっ、失礼しまし」た。実は、網走刑務所から極悪囚人が脱走しこの山に逃げ込んだので、今、斜里と羅臼から追い詰めているところです。是非、「協力ください」とのこと。「えつ、こんなことあるの。熊より怖い」と思いました。いざという時に備えながら、「こうなつたら北海道新聞に勇名をとじろかせよう」と友人と武者震いした思い出があります。

### ビザなし交流で国後・択捉島訪問

それから38年後の2017年7月、ビザなし交流で、国後島・択捉島を元島民とその子孫の方々などと一緒に訪れました。

方々が「戦後70年が経ち、島は私たちにとっての故郷であると同時に、今そこで暮らすロシア人にとっても故郷なんです」「島は返還してもらいたいが、自分たちが島を追われた時の辛さを、今島に住むロシア人に経験させたくない」「日口住民はよき隣人として

択捉島 散布山 外務省ホームページより

### 外交交渉はお互い相手がある

言うまでもなく、外交交渉はお互い相手があることであり、自国の主張が正しいとする一方、相手の主張にも相手国なりの正論があります。

国家の一番の使命は、「国民の生命・財産を守る」「主権・領土を守る」ことですから、日本政府が北方4島

たことです。あれだけ辛い経験をしていながら、今島に住むロシア人のことを思いやる元島民の方々の人としての深さに心を打たされました。

### 強く思う「もつと終戦が早ければ

7年前に母が亡くなりました。母は実の親と暮らせない不幸な生い立ちでしたが、「小さい頃、宣信おいちゃんに、いつもかわいがつてもらつた」と口癖のように話していました。不憫な幼い母を本当に愛しく思ってくれていたのだと思います。

母が亡くなり、戸籍を取り寄せた時、涙が溢れてとめることができませんでした。母の叔父になる宣信おいちゃんは、昭和20年4月20日戦死、享年24歳でした。あと4ヶ月早く戦争が終わっていればと思うと本当に悔しく、母も戦死の報に触れた時どれだけ辛かつただろうかと思うと胸が張り裂けそうになりました。

国後島、択捉島を訪れ、元島民の方々から、ソ連に故郷が占領され、島を追われる際の辛い話を聞いた際にも、1か月早く戦争が終わつていれば、ソ連の北方領土占領はなかつたと思ふと、悔しさが込み上げてきます。

### 北方領土問題の本質を考える

ソ連の対日参戦、北方領土占領、その後の実効支配を認めることはできません。しかし、我々日本人は、ソ連、ロシアを悪者にすることによって、北方領土の元島民は、日本が戦争を始めた犠牲者もつと早く戦争を終わらせられなかつた犠牲者だということを忘れているのではないか、と強い問題意識を持ちます。

### 目次

#### ● 北方領土問題の本質

#### ● プレゼンテーション資料

#### ● 一般的にはあまり知られていない事実

#### ● 北方領土の歴史的経緯

#### ● ソ連による北海道分断占領の意図

#### ● プレゼンテーション資料

#### ● 北方領土問題の基本的認識の共有

#### ● 平和条約締結の場合の現実的解決策

#### ● 第二次大戦後のドイツ人の苦難

#### ● 本質は先の大戦への深い反省

この問題意識を持ちながら、北方領土問題の本質について、読者のみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

下記の表紙ではじまる「北方領土問題の本質」と題するプレゼンテーション資料は、歴史的経緯・背景と2年前の国後・択捉島訪問の経験などを踏まえ、私自身が作成したものです。資料を熟読戴ければ幸いです。

**北方領土問題の本質**

真実を知ることにより格段に増す北方領土問題への理解  
～北方領土問題の本質と対応を探る～

Ver.7-2

2019年6月  
衆議院議員  
吉良州司

CONFIDENTIAL & PROPRIETARY copyright© 2019 Shuji Kira All rights reserved.

「東方経済フォーラム」で、プーチン大統領が安倍晋三首相に突然、「あらゆる前提条件を抜きに、今年末までに平和条約を結ばないか」と呼びかけました。この発言を契機として、日ロ平和条約締結に向けた活動が加速します。一方、ロシア側が「第二次世界大戦の結果として北方4島はロシアの主権下にあることを認めよ」との原則を譲らないため、一時の期待感が薄れている気もします。しかし、安倍政権も最優先と位置付ける「北方領土問題の解決と日ロ平和条約締結」は今なお国家的、歴史的重要課題です。

### はじめに

# 北方領土問題の本質



全ての主権を一切放棄せず、正論を貫き通すことも國家としての矜持だと思います。

しかし、この場合は、日ロ平和条約の締結も、4島どころか1島の返還も実現できない可能性が高いと思われますが、日ロ間は現在、国交もありますが、経済活動も投資も人的交流も支障なく行われており、平和条約締結によるプラス要素は得られないもの、現在得られている国益上のマイナスはないと思われます。

点にも立つてみながら、この問題を客観的に俯瞰してみたいと思います。相手がある外交交渉において、現実的な解決策を追求したいからです。



### 40年前初めて見た国後島の衝撃

私が初めて北方領土を見たのは、大学2年の時でした。今から40年前になります。友人と二人で、知床半島の斜里町を起点に羅臼岳に登りました。熊に怯えながら山道を登り、誰もいない山中で一泊し、羅臼岳に登頂後に羅臼町に下るスリル満点の知床半島横断の旅でした。羅臼岳から見

たことです。あれだけ辛い経験をしていながら、今島に住むロシア人のことを思いやる元島民の方々の人としての深さに心を打たされました。

一方、我が国は安全保障上の現時点での現実的脅威は中国でありロシア相手があることであり、自国の主張が正しいとする一方、相手の主張にも相手国なりの正論があります。

国家の一番の使命は、「国民の生命・財産を守る」「主権・領土を守る」ことですから、日本政府が北方4島中対処するため、また、エネルギー安全保障上、地理的優位性を持つロシアからのLNGや原油の調達を確実にするため、日ロ平和条約を締結することは重要な国家戦略だと思います。

日本の国益、国家の矜持を第一に考えるとは当然ですが、本稿では、歴史的経緯も踏まえ、ロシア側の観

### 3. 北方領土の歴史的経緯 その2

日露通好条約(1855年) (平時に国境を画定した基本となる条約)



樺太千島交換条約(1875年)



日露戦争後のポーツマス条約(1905年)



サンフランシスコ平和条約(1951年9月)



CONFIDENTIAL &amp; PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 4

吉良州司

### 4. 北方領土の歴史的経緯 その3

6. 1993年、エリツィン大統領、細川護熙首相が「東京宣言」に署名。この宣言により、1956年の日ソ共同宣言で合意した「平和条約の交渉継続」が、「北方四島の帰属の問題を解決すること」と明記された

7. エリツィン大統領と橋本首相間の「クラスノヤルスク合意」(1997年11月)と「川奈提案」(1998年4月)

- 1) クラスノヤルスク合意:「東京宣言」に基づき、2000年までの平和条約締結に全力をつくすことに合意
- 2) 川奈提案:「択捉島とウルップ島間が最終的な国境線」「当面、四島の現状を全く変えずに現状を継続」「ロシアの施政を合法的と認める」内容を日本側から提案。ロシア側は同提案を「香港方式」として同意せず。

8. プーチン大統領と森喜朗首相間で「イルクーツク声明」を発出(2001年3月)

- 1) 1956年の日ソ共同宣言を「平和条約交渉締結に関する出発点を設定した基本的な法的文書」とする。
- 2) 「東京宣言」に基づき、4島の帰属問題を解決することにより、平和条約を締結し、両国関係を完全正常化するため、交渉を促進する
- 3) 「同時並行協議方式」を提案: 日ソ共同宣言に基づき、歯舞、色丹の返還を先行させ、東京宣言で帰属問題が争点となっている「国後、択捉の帰属問題は交渉の結果による」とするもの。
- 4) 「同時並行協議方式」は国後、択捉を誇めることにつながる、との我が国の国内反対論が強まり頓挫

9. メドベージェフ大統領が国後島を公式訪問(2010年)し、日露関係は冷え込むが、2012年にプーチン氏が大統領に就任、日本も安倍首相の再登場により、両国関係は改善に向けて動き出す

10. プーチン大統領と安倍首相間で「日露パートナーシップの発展に関する共同声明」を発表(2013年)  
「北方領土問題は、これまでに採択されたすべての諸文書および諸合意に基づいて交渉を進め、双方に受け入れ可能な形で最終的に解決することにより、平和条約を締結する」という決意を表明

11. プーチン大統領が「平和条約を2018年内前に前提条件を付けずに締結しよう」と提案(2018年9月)

CONFIDENTIAL &amp; PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 5

吉良州司

### 1. 北方領土問題に関する、一般的にはあまり知られていない事実

1. <終戦直前、ソ連が満州に攻め込んできたのが、1945年(昭和20年)8月9日のは何故か?>

1945年2月のヤルタ会談において、米英はドイツ降伏(1945年5月8日)後3か月後の対日参戦を要求

2. <ロシアが、「第二次世界大戦の結果として、4島はロシア領土となった」と主張するのは何故か?>

ヤルタ会談において、ソ連は対日参戦の条件として千島列島の領有を要求

3. <米国が北方領土問題に関しては、クリミア問題のようにロシアを厳しく追及しないのは何故か?>

・ヤルタ会談において、米国が対日参戦を要求

・北海道分断を狙い、留萌→釧路ライン以北の北海道領有を主張するソ連の要求を米国は拒否するも、その代わりに、(その時点では)北方領土4島を含む千島列島のソ連領有を認めたと思われる。

<注>1945年2月ヤルタ会談当時の米国は、日本を一刻も早く降伏させるため、ソ連に対日参戦要求したが、日本降伏後は、ソ連が最大の脅威となり、ソ連の対日影響力拡大を警戒し、米国の対北方領土方針を転換、4島の日本主権を擁護する

4. <1956年の「日ソ共同宣言」において、鳩山一郎総理が2島「引き渡し」で折り合おうとしたのは何故か?>

・「帰国できていなかったシベリア抑留者を一刻も早く帰国させたい」。当時の鳩山一郎首相の切なる思い。  
・1951年のサンフランシスコ平和条約締結時、吉田茂総理は「歯舞・色丹は北海道の一部」、「国後・択捉は南千島」と説明していた経緯あり。また、当時の日本の国力が脆弱であったことも大きな要因。

5. <「日ソ共同宣言」にも拘らず、日本政府が2島ではなく、4島返還を主張し続けるのは何故か?>

冷戦真最中のソ連の脅威を前に、日ソ関係の改善、日本の共産化を恐れた米国が2島案を拒否(2島で折り合うならば、沖縄返還には応じない。4島を主張し続けるべしと圧力=「米国国務長官ダレスの恫喝」)

CONFIDENTIAL &amp; PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 2

吉良州司

### 2. 北方領土の歴史的経緯 その1

1. 樺太千島交換条約(1875年) ~北方4島を「日本固有の領土」とする根拠条約~

本条約で、北の占守(シムシュ)島から得撫(ウルップ)島までの18の島々を「千島列島」と列挙しており、日本政府は、本条約を根拠に、「歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方四島は、千島列島に含まれない」との(下記する時期を除き)一貫した立場を取り続けている

2. サンフランシスコ平和条約(1951年9月)

- 1) 1945年8月8日、ソ連は日ソ中立条約を一方的に破棄して対日宣戦布告。ヤルタ協定の密約により、南樺太・千島列島のソ連領有を条件に對日参戦。日本は「ポツダム宣言」を受諾し、8月15日、連合国に降伏。しかしソ連軍はその後も千島列島を占領し続け、9月5日までに「北方領土」を占領。ロシア側は「第二次世界大戦の結果として、北方領土は合法的に自国領になったと」主張し、現在に至る。

- 2) サンフランシスコ講和会議では、日本全権だった吉田茂首相が「歯舞、色丹が北海道の一部で、千島に属さない」と述べる一方、択捉島、国後島については「昔から日本領土だった」と言及するにとどめた。
- 3) 外務省の西村熊雄条約局長は1951年10月の衆議院特別委員会で「放棄した千島列島に南千島(国後島、択捉島)も含まれる」と答弁した経緯があり、日本政府として、「千島列島」の定義について、ぶれがあった。

3. 日ソ共同宣言 ~日ソ間の戦争状態の終結と国交を回復した国際条約~

- 1) 日本側は「四島返還」での継続協議を要求(背景に米国「ダレスの恫喝」あり)するもソ連側が受け入れず。
- 2) 平和条約締結後、「ソ連は歯舞群島及び色丹島を日本に引き渡す」ことが合意された

4. フルシチョフ第1書記時代、1960年日米安保条約の改定に反発したソ連は日ソ共同宣言の内容を後退させ、日本を牽制し、「領土問題は解決済み」との立場を鮮明にした。これに対し、日本は4島返還を主張。

5. 1991年、ゴルバチョフ大統領が来日し、「解決済み」の見解を転換、海部俊樹首相との間で、「4島の帰属問題」について話し合ったことを表明し、ソ連側は、4島が領土問題の対象であることを事实上認めた

CONFIDENTIAL &amp; PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 3

吉良州司

## ヤルタ会談とソ連の対日参戦

北方領土問題を論じる際、人それぞれの主張がありますが、この問題に詳しい方でも、あまり知られていない事実が数多くあります。

1945年2月、米国ルーズベルト大統領、英國チャーチル首相、ソ連スターリン元帥がソ連クリミア連にて、ヤルタ会談を受諾し、1945年5月8日のドイツ降伏3か月後の8月9日に満州に攻め込みます。

▲テヘラン会談におけるソ連・トルーマン元帥、英國チャーチル首相



更に、この会談最終日の晩餐会の席上、スターリンが米国ハル国務長官に対し耳元で囁くように「ドイツ撃破後の対日参戦を伝えた」ことは広く知られています。つまり、ソ連の対日参戦はヤルタ会談前から、米英ソ間で話し合われていて、ヤルタ会談において、条件を含めて正式合意されたのです。

半島ヤルタで会談、米英はドイツ降伏後3か月後の対日参戦を要求、ソ連は南樺太と千島列島の領有を条件に対日参戦を受諾し、1945年5月8日のドイツ降伏3か月後の8月9日に満州に攻め込みます。ドイツ降伏後、ソ連は独ソ戦で活躍した精銳部隊の兵士と軍事物資を急ぎ極東に送ります。当時、米国の原爆開発が急ピッチで進んでいて、ソ連は米国が原爆を投下することによって、日本の降伏が近いとみていたので、日本降伏前に参戦して、ヤルタ会談で約束された権益を得たいと焦っていました。

上記が簡略説明ですが、もう少し詳しく歴史的経緯を説明します。

### テヘラン会談・モスクワ会議密約

実は、ソ連が英米両国に対日参戦の意思を表明したのは、1943年11月の「テヘラン会談」です。また、その前月10月にクレムリンで開催された「第3回モスクワ外相会談」(ソ連からスターリンとモロトフ外相、



米国からハル国務長官とハリマン駐ソ大使、英國からイーデン外相とカーネ驻ソ大使らが出席)において、ソ連の対日参戦も意見交換されました。

第3回モスクワ会議の席上、英國イーデン外相はソ連・モロトフ外相に「ヒトラーの撃破後、英國は海軍を太平洋戦域に送り対日参戦の意向であり、ソ連が対日参戦の意思を表明するなら海軍力で軍事支援す

1945年4月5日、ソ連・モロトフ外相が佐藤尚武駐ソ大使に対して、日ソ中立条約の延長破棄を通告。ソ連は、日本降伏前に対日参戦したいと焦っていたので、もつと早い時期の参戦も検討していました。しかし、準備が間に合わず、結局、ヤルタ会談の取り決め通り、ドイツ降伏3か月後の1945年8月8日に宣戦布告し、翌8月9日に満州に攻め込んだのです。

### 日ソ中立条約の破棄と対日宣戦布告

更に、この会談最終日の晩餐会の席上、スターリンが米国ハル国務長官に対し耳元で囁くように「ドイツ撃破後の対日参戦を伝えた」ことは広く知られています。つまり、ソ連の対日参戦はヤルタ会談前から、米英ソ間で話し合われていて、ヤルタ会談において、条件を含めて正式合意されたのです。

## 北海道分断占領と領有化の意図

### 北方領土歴史秘話2

**ソ連による北海道分断占領と領有化の悲劇**

7月26日ポツダム宣言受諾から8月14日受諾までの20日間は日本の運命を決定づける20日間でした。この間、8月6日の広島への原爆投下、9日のソ連参戦と長崎への原

爆投下、同日御前会議における「ポツダム宣言受諾の聖断」、14日のポツダム宣言受諾の連合国への通達、まさに、日本の命運を左右する、そして、極めて残念なことにあまたの命を犠牲にしてしまった20日間でした。

もし、7月26日のポツダム宣言発出直後に受諾していれば、広島、長崎への原爆投下もソ連の対日参戦も(従って北方4島のソ連占領も北方領土問題も)なかった可能性が高いと思うと胸が痛みます。

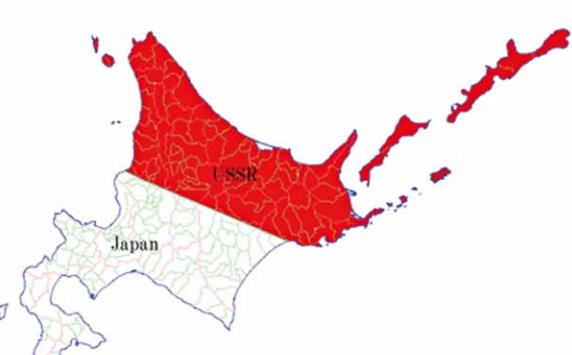
ポツダム宣言受諾が遅れた原因は、軍部が国体護持と日本側による武装解除・戦犯処罰にこだわったこと、また、政府が、「ソ連の終戦仲介」に執着したことになります。ソ連による仲介の期待は、8月8日の対日宣戦布告、8月9日未明のソ連軍の満州なだれ込みにより万策尽き、ポツダム宣言を受諾します。

### スターリン対トルーマン

ヤルタ会談後に死去した米国ルーズベルト大統領の後継トルーマン大統領のある段階では、米国が最北端の4島を除く千島列島を米国勢力圏とすることを、ソ連にも認

### ソ連の北海道分断占領の意図

▲ポツダム会議におけるソ連・トルーマン元帥、英國チャーチル首相



▲ソ連による、釧路～留萌以北の北海道分断占領と領有化の意図

めさせていました。しかし、スターリンは、実に巧妙な外交手腕を發揮して、最終的には北方領土を占領しました。

連合国最高司令官が8月14日にスターリンに、「日本軍がどの国の司令官に降伏するかを定めた」「一般命令書第一号」の原案を送付しましたが、対ソ連降伏地域の中に、ヤルタ会談で約束されていたはずの、「千島諸島」が含まれていませんでした。

この原案に對し、スターリンは、他条件には同意するが2点だけ修正したいと返信します。1点目は、ヤルタ協定に基づいて、日本軍の対ソ連降伏地域に「全」クリル諸島を含むこと、2点目は「留萌・釧路ライ

ン以北の北海道北半分をソ連の占領地域とする」ことでした。2点目に関しては「もし、ソ連が日本固有の領土の占領地を得なければ、ソ連の世論はひどく腹を立てるだろう」と威嚇します。このことは、現在でもロシアが「日本固有の領土である北方4島」を頑として譲らない遠因、いや本質なのかもしません。

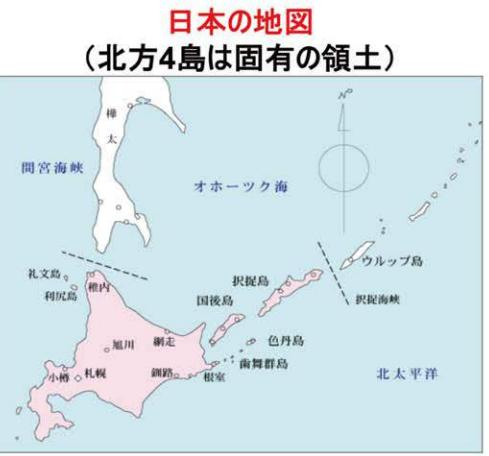
### 北方4島占領を米国が事実上承諾

トルーマンは、北海道北半分占領は拒否しますが、代わりに、日本軍の対ソ連降伏地域に「全」クリル諸島の占領(領有)を確實に勝ち取ろうとしていたのです。

一方、米国が受諾する場合に備え、軍部に北海道北部占領計画を描かせ、且つ、二個師団、一個空軍師団、太平洋艦隊の一部を北海道北部占領作戦のために配置していました。

斯塔ーリンの「北海道北半分の占領条件は「おとり」「えさ」であり、拒否される代わりに「全」クリル諸島の占領(領有)を確実に勝ち取ろうとしていたのです。

## 7. 北方領土問題の難しさ（日本とロシアの立場の違い）



北方四島に在住していた日本人の人口  
島名 1945年(昭和20年)  
色丹島 1,038人  
国後島 7,364人  
択捉島 3,608人  
歯舞群島 5,281人  
計 17,291人 (3,124世帯)



北方四島に在住しているロシア人の人口  
島名 2016年  
色丹島 2,917人  
国後島 7,817人  
択捉島 5,934人  
歯舞群島→国境警備隊のみ  
計 16,668人

### <日本人がソ連とその後継国家ロシアに対して持つ3つの感情的しこり>

- (1) 有効な日ソ中立条約を破って終戦直前の8月9日に対日参戦したこと
- (2) 1945年8月15日の日本降伏以降に、無抵抗の4島に侵攻。占領したのは、1945年9月5日であること
- (3) 满州にいた日本軍民をシベリアに抑留(57.5万人)、極寒の地で強制労働させ、多くの命(5.5万人)を奪ったこと

CONFIDENTIAL & PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 8

吉良州司

## 8. 北方領土問題の現実的解決に対する「基本的認識の共有」

1. 主権は「国家の根本」「国家の尊厳」「国家の面子」の問題。経済的效果や利益とは次元を異にする
2. しかし、4島全ての主権を主張し続ければ、1島も戻ってこないし、平和条約も締結できない
3. 一部でも領土主権を放棄すれば、尖閣諸島問題や竹島問題にもマイナスの影響が出る
4. 仮に北方4島が終戦時以降現在まで、日本の領土であり続けたとした場合、現在は、日本でもっとも過疎化が進んでいる地域である可能性が高い。生活する上で、また、経済的に自立するには非常に厳しい環境
5. 実利面からは、元島民と子孫の自由な墓参・里帰り、及び、制約のない漁業と経済活動が重要
6. 安倍政権は、「共同経済開発」「ロシアの生活環境大国、産業・経済の革新のための8項目の協力プラン」、「ビザなし交流の拡充(航空機使用訪問も実現)」など、平和条約締結に向けた布石を打ってきている
7. 北極海航路開設とシベリア最北端のヤマルLNGプロジェクトの稼働にともなうLNGの東アジアへの海上輸送路となる千島列島は、地政学的・軍事的重要性に加え、経済的重要性も増大
8. ゴルバチョフ、エリツィン時代を含め、ロシアは経済力、国力が低下した時には「譲歩の可能性」を匂わせる。  
しかし、現実交渉の中で、現実的な「譲歩」をしたことは一度もない。「2島引き渡し」から「4島帰属の問題の解決」へと譲歩したように見えるが、国後・択捉の日本主権の可能性を認める言動は一切ない
9. 理想的100点満点は平和条約締結、歯舞・色丹の日本主権の確認、国後・択捉主権の交渉継続
10. ロシアは国境警備隊以外ロシア住民がない歯舞群島だけは日本主権を認める可能性はあるが、現実に計1万6千人強のロシア人が住む国後・択捉・色丹の主権を認める可能性は原則として低いと思われる
11. 元島民も「4島は現実的に無理」「2島で決着しての平和条約でもいい」との意見が多くなっている

CONFIDENTIAL & PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 9

吉良州司

## 5. ロシア・ラブロフ外相の強烈な牽制球 「第二次大戦の結果を認めよ」

### 1. ロシアのラブロフ外相の強烈な牽制球(2019年1月6日、年頭記者会見)

- (1) ロシアは、北方領土における自国の主権を含めて「第2次大戦の結果」を認めるよう日本に迫っている。これは、「最後通告でも前提条件でもない」と説明。
- (2) 国連憲章107条(旧敵国条項)に言及し「日本は、第2次大戦のすべての結果は搖るがないと宣言している国連憲章に署名・批准した。われわれは日本に何も求めておらず、国連憲章などの義務に沿った行動を呼び掛けているだけだ」と語る。
- (3) 日本の領土返還要求は「国連憲章の義務に明白に矛盾する」と問題視したほか、日本は「世界で唯一第2次大戦の結果を完全に認めていない国」と発言

### 2. ラブロフ外相発言の意味するところは？（ロシア側の論理に立て考えてみると。。。）

- (1) 日露通好条約、千島樺太交換条約、日露戦争後のポーツマス条約の内容を全て認めた上で、また元々アイヌ民族が住み、松前藩が実効支配していたという事実と、既述条約内容を元にした「日本の固有の領土」論も認めた上で、その「固有の領土」である北方4島を第二次世界大戦の結果としてロシアが領有するに至った。その事実を日本が認めないと平和条約交渉には入れない。まず事実を認め、受け入れよ
- (2) 米英ソ首脳による「ヤルタ会談」において、米英から対日参戦を要求され、千島列島をソ連が領有するとの条件で1945年8月9日に対日参戦した。それは当時の連合国(現在は国連)の意志である。  
<注> 冷戦激化に伴い、米国は同会談の法的効力を否定、4島は千島列島に含まれないと日本政府の主張を支持する見解へと転換
- (3) 日ソ中立条約はソ連として破棄を通知済であったが、破棄通告後1年は有効ゆえ、対日参戦時は、まだ有効であった。しかし、日本の同盟国ドイツは「独ソ不可侵条約」を破ってソ連に攻め込んだ経緯あり。大戦に勝利し、大戦後の世界秩序を守る連合国の中核である米英の要請による対日参戦は正当である。

CONFIDENTIAL & PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 6

吉良州司

## 6. ロシアが「第二次世界大戦の結果」論を主張する背景～国際連合と日本の立場～

### 1. ロシアが「第二次世界大戦の結果」にこだわる歴史的背景

- (1) 第二次世界大戦は「連合国(United Nations)」が勝利し、戦後も連合国が事実上、世界を統治している。日本人が「国際連合」「国連」と呼ぶ、ニューヨークに本部を置く国際組織の英語表記も「United Nations」(連合国)であり、日本以外の国は、「連合国」と直訳表記している。  
\* <参考> 中国では「聯合國」と表記。ドイツ(Vereinten Nationen)もイタリア(Nazioni Unite)も「連合国」と直訳
- (2) ヤルタ会談において、United Nations(連合国)のリーダーである米英から対日参戦を要求され、千島列島の領有を条件に、ソ連は対日参戦した。ソ連による千島領有は、第二次世界大戦の結果であり、その結果としての国境線を含む世界秩序を守る立場にある「United Nations」が認めたもの。「日本の北方領土主権」は第二次世界大戦の結果を認めようとしない主張であり、認められない。

<注> 独ソ不可侵条約を破ってドイツがソ連に攻め込んだ結果、ソ連は2000万人もの犠牲者を出して、極東においても相応の分け前を獲得して当然と思っていたのでは。

### 2. 国際連合に残る「敵国条項」(国連憲章第107条、第53条、第77条)

#### (1) 敵国条項

敵国条項とは、国連憲章第53条、第77条1項b、第107条に規定されている。その内容を端的に言えば、第二次大戦中に連合国に敵国であった国が、戦争の結果確定した事項に反したり、侵略政策を再現する行動等を起こした場合、国際連合加盟国や地域安全保障機構は、安保理の許可がなくとも当該国に対して軍事制裁を科すことができる、としている。つまり、あらゆる紛争を国連に預けることを規定した、先の国連憲章51条の規定には縛られず、敵国条項に該当する国が起こした紛争に対して、自由に軍事制裁を課す事が容認されている。

#### (2) 敵国条項の削除はなされていない

1995年の国連総会で敵国条項を削除する決議案を日本やドイツが提出し、賛成多数で採択された。しかし、国連憲章も国際条約の1つであり、それが効力を持つためには、国連憲章108条の規定により、国連総会で3分の2の多数で採択され、かつ、全ての安全保障理事会常任理事国を含む加盟国3分の2で、各国の憲法に基づいて批准される必要がある。現在も発効に必要な3分の2の加盟国の批准がされていないため、敵国条項は文言上存在している

CONFIDENTIAL & PROPRIETARY copy right© 2019 Shuji Kira All rights reserved. 7

吉良州司



## 平成から令和への御代替わりに思う

平成から令和への御代替わりが、上皇陛下への感謝と敬愛の念を伴いつつ、国民の祝意と大歓迎ムードの中で行われたことは感激でした。

この御代替わりを通して、天皇と天皇制が、そして皇室が多くの方々から熱烈に支持されていることがわかりました。このことは、上皇陛下が平成の30年間、常に国民に寄り添われてきたことへの国民からの恩返しだったと思います。



### 国民への感謝と敬意の念を伝える上皇陛下

昨年の平成最後の天皇誕生日における上皇陛下のお言葉に、涙が止まりませんでした。

お言葉の中には、自然災害の犠牲になった方々、先の大戦で尊い命をなくした方々、苦難を強いられてきた沖縄の人たちに寄り添おうとするお気持ち、戦後の日本国民が戦争と敗戦後の困窮・苦難を乗り越えて平和な国を築いてきたことへの感謝と敬意の念、障害と戦いながら力強く生きる障害者への深い愛情、災害時に被災地に赴くボランティアに対する敬意と称賛の念、が誠意溢れるお言葉で語られていました。

また、世界平和を希求する強いお気持ち、それゆえに昨今の民族紛争や宗教による対立やテロによる犠牲が多発することへの深い憂慮と懸念も述べられていました。更には、「日本民族の長」として、日本がまだ貧しかった時代に、新天地を求めて海外に雄飛していった日系人に対する愛情、その日系人を温かく迎えてくれた国々や人々に対する感謝の思いを伝え、それだからこそ、今、日本に働きにくる外国人をみんなで温かく迎えよう呼びかけます。

### 戦争のない平和な国であり続けることへの切なる願い

何よりも陛下が一番伝えたかったことは、戦争のない平和な国であり続けることへの切なる願いだったのではないでしょうか。上皇陛下自身も物心ついでから戦争終結の11歳までは満州事変、日中戦争、太平洋戦争と戦争の真っただ中で育ち、疎開生活を余儀なくされていたこともあり、戦争のない国、平和を願う気持ちを誰よりも強く持っておられたと思います。昭和天皇が果たせなかつた、祖国に残された家族を想いながら太平洋で散つていつた戦没者への慰霊の旅を、高齢も顧みずに決行されたのは、ご自身の御代で、先の大戦の深い反省と犠牲者への慰霊に一区切りつ

ける覚悟だったのではないか。パラオのペリリュー島において皇后とともに深々と頭を下げる上皇陛下の姿に胸を打たれたことは今でも忘れられません。

上皇陛下が如何に強く永久の平和を願っていたかは、次の言葉でわかります。「我が国の戦後の平和と繁栄が、このような多くの犠牲と国民のたゆみない努力によって築かれたものであることを忘れず、戦後生まれの人々にもこのことを正しく伝えていくことが大切であると思ってきました。平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵しています」と。

### 苦難にある人々に寄り添う「象徴天皇」

思えば、平成時代は、上皇陛下が「象徴としての天皇」像を模索し続けた30年だったのではないでしょうか。

今年2月に催された「天皇陛下在位30周年記念式典」において、上皇陛下は、「災害の相次いだこの三十年を通じ、不幸にも被災の地で多くの悲しみに遭遇しながらも、健気に耐え抜いてきた人々、そして被災地の哀しみを我が事とし、様々な形で寄り添い続けてきた全国の人々の姿が忘がたい記憶」だと、苦難にある人と苦難にある人へ寄り添う国民への慈愛の言葉を投げかけられました。

昭和天皇は、その前半生は「現人神」でしたが、上皇陛下は、最初から「象徴天皇」として即位された、歴史上はじめての天皇でした。そして、常に国民に寄り添い続け、特に苦難にある国民に対して慈愛を以って寄り添い続けた結果、国民から愛される「象徴天皇」像を確立されたのだと思います。

上皇陛下の「慈愛に充ちた天皇」としての背中を見続けてきた今上陛下の令和の御代が、戦争のない平和な時代となること、そして、一人ひとりが幸せを感じられる日本になることを祈ります。

吉良 州司

## 北方領土問題の本質

おわりに

苦難の原因は戦争を始めたこと

ヴァイツゼッカー大統領演説

の中で最も感銘を受けるのは、  
「戦後のドイツ難民の苦難は到底  
言葉には尽くせないが、その苦難  
の原因は、ドイツが戦争に負けた  
からではなく、ドイツが戦争を始  
めたことにある。取り違えないで  
ほしい」という一節です。

今を生きる日本人の中で、北方  
領土問題が「先の大戦を始めたこ  
と、もっと早く終戦できなかつ  
たことに眞の原因がある」と認  
識、自覚している人が一体どれだ  
けいるでしょうか。ポツダム宣言  
発出（1945年7月26日）直後  
に降伏していれば、広島・長崎の  
原爆もソ連の対日参戦もなく、北  
方領土問題は存在しませんでし  
た。それよりも半年前に降伏して  
いれば、20万人が犠牲になつた沖  
縄戦も、10万人が犠牲になつた東  
京大空襲もありませんでした。沖

繩の苦難もありませんでした。樺  
太を領有し続けていれば、現在の  
サハリンの石油・天然ガス・プロ  
ジェクトからして、わが国が石油  
や天然ガスに不自由しない国に  
なつていたかもしれません。

参戦も沖縄戦も、今まで続く沖  
縄の苦難はありませんでした。樺  
太を領有し続けていれば、現在の  
サハリンの石油・天然ガス・プロ  
ジェクトからして、わが国が石油  
や天然ガスに不自由しない国に  
なつていたかもしれません。

### 戦争指導者を許せない

私は、戦争を始め、早く終戦でき  
なかつた戦争指導者を許すことが  
できません。

お母さんにとって、愛おしさこの  
上ない大事な息子を、新妻にとつ  
て、これから的人生を一緒に歩いて

いくはずだった大事な夫を、子供  
が生まれたばかりのお父さんを、  
弟や妹にとつて大好きでたまら  
なかつた大事なお兄ちゃんを、赤紙  
一枚で招集し、勝ち目のない戦線  
に投入して、戦死、餓死、病死させ  
た戦争指導者を許すことができま  
せん。かけがえのない人々を、戦地  
に赴く途中の護衛もない輸送船の  
中で海の藻屑と消えさせた戦争指  
導者を許すことができません。何  
の罪もない人々が、平和な暮らし  
を奪われ、空腹に苦しみ、空襲に怯  
え、命を絶たれる、その根本原因を  
つくつた戦争指導者を許すことが  
できません。展望もない絶望の戦  
いに精神論だけで向かわせようと  
した軍人幹部を決して許すことが  
できません。何の罪もない大陸の  
人々、アジア大洋州の人々に犠牲  
と苦難を強いた戦争指導者を許す  
ことができます。

「日本固有の領土である4島全て  
の主権を一切放棄せず、正論を貫き  
通すこと」が、国家としての矜持で  
あり、最も大事な選択肢であること  
は間違ひありません。

一方、ロシアと平和条約を締結す  
る道を選択する場合は、第二次大戦  
の結果を受け入れ、一部の主権を放  
棄せざるをえません。固有の領土を  
失うという苦渋の決断を強いられ  
る根本原因是、戦争を始めたことに  
あるとの「先の大戦への深い反省」  
のもと「不戦の誓い」とすべきです。



大阪市豊島区ホームページより



南あわじ市ホームページより

## 北方領土問題の本質は先の大戦への深い反省

# 天下の悪法

## 参議院定数6増法

～本来、消費税を上げる前に、議員定数を削減すべき～

参議院選挙の大事な争点！参議院定数6増に鉄槌を！



本会議において、「天下の悪法」参議院定数6増法に断固反対の討論を行いました。

夏の参議院選挙が間近に迫っています。争点は、消費税率アップ、憲法改正の是非など、様々な課題がありますが、最近、忘れられてしまっている大事な争点があります。それは、昨年、自民党が議員立法として提出して成立した「天下の悪法」「参議院定数6増法」です。昨年、私も同法主管委員会の理事として同法案に対して徹頭徹尾抵抗もし、本会議では代表討論において、何度も「天下の悪法」と繰り返し、与党議員にも否決するよう訴えかけました。残念ながら多数党により可決され、今夏の参議院選挙は、この定数が6つも増える環境で実施されるのです。

### 参議院定数6増法の概要

どのような経緯や内容の法案だったのか、お忘れの方もいると思われますので、少し振り返って確認したいと思います。

元々一票の格差を正す目的として議論がはじまった同法の概要は下記の通りです。

参議院の定数を現在の242から248と6議席増やす増やす内訳は、選挙区を現在の146から148に2議席増やす。対象は埼玉選挙区(3人区から4人区に)。比例代表を現在の96から100へと4議席増やす。

比例代表は、現在の「非拘束名簿方式」(各政党内の当選者は得票の多い順に決まる仕組み)に加え、特定枠制度を導入し、その特定枠については「拘束名簿方式」(政党が提出した候補者の順位通りに当選する仕組み)とする。

### 国民不在の定数増の背景

消費税の増税は、議員定数を減らすことが大前提でしたので、とても国民の理解を得られるとは思えない「天下の悪法」です。それでも何故この悪法を強引に成立させたのか、それは「島根県・鳥取県」「高知県・徳島県」が合区となっていて、2県の内、代表を選出できない県の与党候補者と与党

支持者の不満が噴出していたからです。この問題を解決するため、「拘束名簿」方式の特定枠に、合区で代表を選出できない県の候補者名を名簿記載することで、比例代表枠ながら、県代表が選出されることを狙っているのです。

比例代表枠を4増やす理由は、既存定数を増やすないまま特定枠を設けると、既存の比例代表選出枠が減るため、当選可能性が低くなることへの不満が噴出するからです。結局、国民不在で自民党参議院議員やその候補者の誰もが不利にならない方法を恥も外聞もなく成立させた「天下の悪法」なのです。

人口の少ない地域の声もできるだけ反映させたいと考えることまでは否定しません。しかし、国民の意思を反映しやすいとして導入された非拘束方式の現行制度をわざわざ変更して特定枠を作り、その枠を拘束式にすることによって、合区で代表を選出できない県の候補者の当選が名簿に記載された時点で事実上決まってしまう「特定の候補者の当選を狙い撃ちした制度」が本当に許されるのでしょうか。

### 与党議員も疑問視する天下の悪法

2012年の野田総理と安倍晋三自民党総裁の党首討論において、国会議員定数の削減に取り組むことを約束したからこそ、野田総理は解散に踏み切り、自民党は政権復帰を果たしたわけです。政権を担い、衆参両院で多数を占めるようになったら、いつも簡単に党内事情を優先して定数を増やすことが許されていいはずがありません。

この定数6増法については、与党議員の間でも議論が噴出し、否定的な議員も大勢いました。常識的な感覚をもった議員、国民にとって納得できるはずがありません。国家・国民はなおざりにされ、自分達の都合しか考えていないことの証ともいえる悪法のもとで行われる今夏の参議院選挙において、良識ある国民のみなさんと一緒に鉄槌を下したいと思います。

吉良 州司

# 児童虐待のない社会に 子どもたちの誰もが 愛情に恵まれる 世の中にしたい

～結愛ちゃん、心愛ちゃんの悲劇を  
二度と繰り返してはならない～



結愛ちゃん、心愛ちゃんの悲劇が二度と繰り返されない社会にしたい。  
児童相談所を視察訪問し、職員の方と意見交換しました。

をいう世界なので、相談員の確保と育成が急務であることも悲痛な現場の訴えでした。

### 児童虐待防止法案

これらを含む様々な問題点を克服し、児童虐待防止対策を抜本的に強化する法案(「児童虐待を防止し、児童の権利利益の擁護を図るための児童福祉法等の一部を改正する法律案」)が野党5会派共同で衆院に提出されました。児童虐待根絶に向けた、また、虐待を繰り返す親に対する諸施策も盛り込まれていることから、与党もその内容を取り入れ、修正案が可決されました。児童虐待根絶に向けて社会全体で立ち上がる時です。

### 虐待の連鎖を断ち切る

一番の根本対策は、そのような親をつくりださないことです。妻や子供に激しい暴力を繰り返す親の元で育てられた子供は、暴力は「愛情」のひとつの表現であって、「お父さん(お母さん)は愛情があるから、その愛情の証として暴力をふるっているんだ」と思い込まなければ生きていけないそうです。暴力、虐待は連鎖していく可能性が高いのです。この連鎖を断ち切らなければなりません。そのためには、30年から50年先まで見据え、「いい親を育てる」という意識で、今の子供たちを学校、社会で育てていく必要があると思います。

### 子どもの誰もが愛情に恵まれる社会に

子供が大好きで、いつも将来世代最優先を掲げていながら、結愛ちゃん、心愛ちゃんを救えなかった社会の現状に自らの無力さを痛感しています。この加害者のような親をつくらない社会にしたい、二度とこのような悲劇が起こらない社会にしたい、生まれてくる子供の誰もが愛情に恵まれる世の中にしたいという強い気持ちを、今後の活動の原動力にしたいと心の底から思います。

結愛ちゃん、心愛ちゃんを始め、虐待によって犠牲になった多くの子供たちのご冥福を祈ります。

吉良 州司



## 写真でみる 活動報告



恒例のわさだタウンでの街頭演説。  
少子化対策、世界経済、日本経済、生活者優先、将来世代最優先の政治につき熱く訴えました。



建設業で働く方から現場の声を聞く



ベトナム訪問 グエン・ティ・キム・ガン  
国会議長を表敬訪問しました



北海道胆振東部地震の視察に。山の斜面がはげ落ち、多くの犠牲者が。  
災害対策・防災は日本の喫緊の課題であり、「命を守る」使命を再確認しました



税制調査会取りまとめ会に出席



大分舞鶴高校の後輩、山田さんと、脇坂君が  
国会見学に来てくれました。きっかけは、大分を元気づける若者との交流の場「おおいのナイト」でした



医療・介護現場で働くみなさまから  
要望を受ける



2018年4月17日。ブラジル議員団を迎えて吉良州司はポルトガル語で挨拶。  
議員団は感激して、ほとんど吉良州司との会話になってしまった



大分川ダム湛水式に出席



大分県行政書士会 定時総会に出席



基幹労連国政フォーラムに参加



2017年8月17日。今は亡き仙谷由人先生、中国研究第一人者の川島真東大教授、長島昭久衆議院議員と中国勉強会



文藝春秋「同級生文歌」に掲載する写真撮影の現場。大分舞鶴高校23回生の同級生が文藝春秋に掲載されました。右から、藤本昌義・双日社長、池辺和弘・九州電力社長、太田勝造・東京大学法学部教授、足立信也参議院議員、吉良州司



大分No.1のIT企業(株)オーエーの  
みなさんが本会議場を見学



家族ぐるみで親しい渡邊さんご家族が国会見学に。  
渡邊さんは、東日本大震災発生直後に現地入りし、人命救助に奔走したお医者さん。  
吉良州司・卓司も東北自動車道開通とともに、渡邊さんと一緒に石巻や女川を中心に被災地、被災者対応に当たりました



ジャパンセミコンダクター(旧東芝)  
労組定期大会に参加



大分県電力総連の定時大会に参加



連合大分地協主催研修会の講師



「みんろうきょう」2018政策研修会に参加



教育の現場で働く皆さんから社会保障制度の要望を受ける



以前より交流の深い市議会議員のご家族が、  
小さな腕白くんを連れて国会に。目じりが下がりっぱなしでした。



JR九州労組の交通重点政策勉強会に参加



日本ALS協会大分県支部総会と患者家族のつどいに参加



駄原総合運動公園ラグビー場(駄原ラグビー場)改修記念式典に参加。  
式典のあと、まっさらな芝生の上をラグビー選手になった気持ちで走りました



退職公務員の皆様から要望を受ける



渡邊家の長男寛大君が予算委員長、長女恵ちゃんが総理になりきり答弁。予算委員会が開催される第一委員会室にて

# 写真でみる活動報告



国民民主党大分県連 第二回定期大会。  
「安達きよし」さん(左から2番目。吉良州司の隣)の激励会ともなりました。



大分県社会保険労務士会賀詞交歓会  
大分県議選で各陣営(写真は小嶋県議)  
の出陣式に参加。



キラキラ会の新春互礼会。大友宗麟のPR役を担う女子グループ「七色こんぺいとう」が大人気でした。ノリノリで、一緒に踊るはめに!



大分県税理士政治連盟定期大会に出席



大分共同火力労組・青年女性委員勉強会の講師。  
「吉良州司も、生まれた時から政治家やおじさんだったわけではありません」と題し、ほとんどの時間は、冒険三昧だった若い頃の話や自分のずっとかけ話をなどに費やす勉強会でした。若い世代との共有空間はとても有意義でした



天皇陛下御即位三十年をお祝いする県民の集い。上皇陛下への感謝の想いを語りました



大分県行政書士会との意見交換会。  
大変、勉強になりました



大分舞鶴高校同窓会に参加。  
仲のいい同級生との楽しいひととき



2018北東アジア国際観光会議in大分に出席。観光が大分と世界をつなぐと挨拶



戸次の「大野川合戦まつり」に参加



別府駐屯地 創立61周年記念行事に出席。「日々の厳しい訓練により精強性を高めることこそが防衛力。崇高な使命を担うみなさん、頑張ってください」と激励挨拶



地元、大分西中学校体育大会&西の台小学校大運動会。運動会では応援合戦の審判員。赤白どちらにも軍配をあげたいです



大分縣護國神社「秋季例大祭」で参拝



大分県立武道スポーツセンター開館記念式典。武道やスポーツは大分と世界をつなぐと挨拶



日本弁護士政治連盟大分県支部との意見交換会。さすが、プロの法律家。勉強になりました



大分舞鶴高校23回生同窓会に参加。  
城東中学野球部の仲間。レギュラー9人中8人が大分舞鶴に入学。特に仲のよかった写真の仲間は、それぞれ、東大、早稲田大、九大、熊大、京大に進学。



大分市で開催されたメーデーの大会に出席



にじが丘の夏祭り。大好きな御神楽や和太鼓に感激



青葉台の夏祭りの開会式。イベントを楽しみました



情報労連の定期大会に参加



高崎の夏祭り開会式。舞台で鏡開き



高尾台の夏祭り。恒例の催し物を楽しみました

## 愛すべき我が父

先日父・吉良市雄の米寿を祝う食事会をしました。父は前菜から最後のデザートまで見事完食。88歳にして未だ食欲は衰えません。食事をしながら私たちが子どもの頃のこと、父の現職時代のエピソード、兄が選挙に出た時のことなど、昔話に花が咲きました。米寿の父と語らう中、兄吉良州司を2003年の大分県知事選挙出馬以来、近くで支える中でつくづく感じこと、それは、今の兄をつくりあげたのは、父の背中と、父が信頼してやまない方々のご支援のお蔭だということです。



### 厳格を絵に描いたような父

兄州司は、著書「選挙革命」の「生い立ちと父母」の中で次のように記しています。

『父は厳格を絵に描いたような刑事の警察官で、「質実剛健」を三人の息子たちに教え込もうとしていました。小さい頃から、「言い訳をするな」「義を言うな」という父の口癖に加え、「喧嘩をするな。しかし、どうしても喧嘩をしなければならない時は必ず自分より強い相手とやれ。そして、絶対に負けるな」と言い聞かされて育ちました。子供心にいつも父の正義感を目の当たりにしたことが、今の私の価値観に繋がっているかもしれません。精神だけでなく、身体も鍛えられました。いつも兄弟間でレスリングや柔道を強制され、小学校時代は、兄は400回、私は300回、弟も200回の腹筋運動をやらされました。

決して豊かではない家計の中で、男の子三人を育て大学まで行かせるために、母は肉や魚など栄養のあるものはほとんど子供に食べさせ、自分は漬物ばかり食べていました。自分たちが小さかった頃の母は、いつも夜中まで別府の竹細工や毛糸編みなどの内職をしていました。そんな母を見ていたから、子供とはいえ「あれが欲しい、これが欲しい」とは決して言えませんでした。小さい頃、実の親兄弟と暮らせなかつた母は、家族の絆を一番大事に考え、親兄弟が支えあって一緒に暮らせることを何よりも幸せを感じていました。』



### 父に恩返ししたいと集まる支援者

2003年の大分県知事選挙は、共産党を除く全政党、連合、県内全ての団体が相手方支援でしたので、吉良州司の戦いは自ずと家族とその知人、友人が中心にならざるをえませんでした。そんな中で、ほぼ互角の戦いができたのは、40年以上にわたり県内全域を網羅する大きなネットワークを築いていた父の力だったと思い知ることになります。「吉良さんに恩返しできるのはこの時ぐらいや」、「吉良さんの息子なら間違いない」などと、一度も会ったこともない人たちまでもが「吉良市雄の息子」である兄を応援してくれたのです。その中に、「お父さんには昔世話をした。その恩返しをさせ

てもらいたい」と申し出てくれる人たちがいました。父の警察官現職時代に本当に父に「世話をした」と方々でした。

### 「鬼刑事」といわれた父の温情

なにゆえ「鬼」といわれた父に恩返しをしようとしてくれるのか、その理由は、後に兄が外務副大臣の時に、別府市の今日新聞(壇上陽一代表)が教えてくれることになります。

先人の教え

昭和三十年代から四十年代はじめの頃、当時、浜町にあった別府警察署に、ある「鬼刑事」がいた。暴力団担当で、石井組を解散に追い込んだ職的な警察官の一人。捜査に当たっては情け容赦なく被疑者を追及、大分県警にこの人ありと謳われた。

しかし、刑が執行されると、受刑者の妻子を励ましたり、人生相談の役割も心温かく受けた。自身は三人の男の子を授かるが、自分の子供の小学生時代、参観日や運動会にはめったに行つた事がない。受刑者の子ども達の応援に出向いては、その家族を見守り続けた。テレビや映画に出て来そうなこの人物は、大分市に在住の吉良市雄さん。次男はこのほど外務副大臣に就任した州司さん。暴力団絶滅にシノギを削る福岡県警の担当者に伝えたい話だ(陽)

今日新聞

### 家族を顧みることなく仕事に打ち込む父

父にとっては警察官が天職だったのでした。父は仕事の鬼で、早朝から夜中、時には徹夜で仕事をすることもしばしば。そのため家族は、家で窓を開いて父の姿を見ることはほとんどなく、たまに夜早く帰ってきたと思ったら、若い署員の人を連れてきて、ご飯を食べさせ、それから事件の捜索や張り込みに出かけるという日々でした。

また、吉良家の3兄弟とも運動が大得意で、運動会は年に一度の晴れ舞台だったのですが、父は家族愛に恵まれている息子たちより、世間的に厳しい目で見られている受刑者の家族を優先していました。更生された方々が「恩返し」をしてくれたのです。

### 運動は父の期待通りの3兄弟

晴れ舞台だった運動会や競技会、腹筋運動などで鍛えられた3兄弟にとって大活躍の場でした。長兄は大分県陸上大会において中学2年時、3年時とも走り高跳びの優勝者。兄州司はその経験からよく誤解されますが、小学校時代は腕白ガキ大将で、運動、特に球技が得意で、速球投手で鳴らしました。中学時代も野球部のレギュラーながら、陸上部助っ人として大分市・大分県の陸上大会に200m走、走り高跳び、800mリレーに出場、2位、3位を含め全て入賞。私も小学校時代の大分市・大分県の陸上大会で100m、走り高跳び、400mリレー(アンカー)、1,000mで優勝しています。中津市の南小学校マラソン大会では、6年の州司と2年の私が兄弟優勝を果たすなど、運動は父の期待通りの3兄弟でした。

### 父にまつわるエピソード

そんなかつての「鬼刑事」吉良市雄のエピソードの一端を紹介します。

- 1 いくら現職警察官時代とはいえ、東京の警察大学に行っていた時、新宿駅の線路を挟んだ隣のホームで喧嘩が始まつたのを見て、急ぎ階段を降りて、登って、取り押さえた話。
  - 2 豊後高田警察署署長の時に、交通課の署員が小学校の運動会の周りの車に「駐車禁止」を張り付けてまわり、署に戻り自慢げに話していたところ、「年に一度の家族の楽しみの場なのに、お前たちは何を考えているんだ、今すぐに剥がして謝ってこい」と指示した話。今の時代なら、確実に問題沙汰になるのでしょうか…
  - 3 上皇陛下が皇太子殿下の時、大分に来県した際の警護責任者として、万が一の時、身を呈して殿下をお守りするのだから恥ずかしい格好ではいけないと、まっさらな白い下着を身につけ、家を出た話。まさに武士の精神。
  - 4 兄州司の東京での結婚式の直前に誘拐事件が発生したため、急ぎ大分に戻り指揮を執る。その時息子州司に宛てた手紙には「明日の結婚式には参列できないかも知れない。俺のような警察官の父を持つことを宿命思ってくれ」と。ただ幸いにも被害者は無事保護され、事件も解決したため、再度上京して結婚式に参列した話。
  - 5 トキハ別府店勤務時代、関東から流れてきた若者の窃盗犯グループを見かけ捕えようとした時、主犯格の20代の大男が父に向かって突進。父は寸前で身をかわしながら、次の瞬間相手の手首裏に押さえる伝家の宝刀「小手返し」でひっくり返して取り押さえた話。この時すでに70歳を過ぎていた父。
- と武勇伝や逸話を挙げればきりがありません。

### 社会の縮図の中で生きてきた

本広報誌の文部科学委員会の議事録にも掲載されていますが、私たち家族は、母の夜なべの内職仕事も含め「社会の縮図」の中で過ごしてきました。エピソードの最大のものは、上述の今日新聞記事にも関係する次のような話です。

父は昭和40年から4年間別府警察署に勤務しましたが、観

光地の当時の別府は表の顔も裏の顔も持ちあわせる複雑な街だったようです。

兄州司が小学校4年と5年のクラスメイトには、当別府市を本拠として勢力を誇っていた暴力団石井組組長の息子、新ちゃんがいました。その石井組を壊滅する最前線の刑事が父でした。兄州司は小さい頃からどこにでも私を連れていたので、私を伴いよく新ちゃんの家(3層の天守閣があるような邸宅)に遊びに行っていました。豪華な家に沢山のおもちゃを持っている新ちゃんの家に行くのは楽しみで仕方ありませんでした。ただ当時、新ちゃん遊び、喧嘩するのは、兄ひとりだけでした。長じて知ったことは、他の同級生の人たちは、親から「絶対に新ちゃんに近づくな」と厳命されていたようです。しかし、父は新ちゃんが暴力団組長の息子であることを兄にも私にも伝えなかったので、最後まで兄も私も知りませんでした。父に言わせると、「親は親、子は子だ」ということです。今から考えると、恐ろしい話ですが、これほどに腹の据わった父でした。

### 献身的に母を老々介護していた父

そんな父も、母が倒れるまでの72年間、「男子厨房に入らず」でしたが、母が倒れたのを機に料理を始めました。母の闘病生活は11年半に及びましたが、若い頃、家庭を母に任せっきりだったことを償うかのように、父が一人で母の世話をしました。母が亡くなった今、毎朝仏壇に向かい「おはよう」と口に出して呼びかけ、その日の予定や、子供や孫が来る日などは、その無事をお願いし、夜には無事のお礼を言う、そんな毎日です。また近所の人たちにもよくしてもらい、毎朝のラジオ体操や地区老人会の旅行、等々周囲の人たちに恵まれ楽しく暮らしています。



### ひ孫全員を抱くまで元気でいてほしい

米寿のお祝いから4週間後、父はじめてひ孫を抱っこし、満面の笑みを浮かべて嬉しそうでした。父は「東京オリンピックまでは生きんといかん」と常々言っていましたが、ひ孫と会って以来、孫全員の子どもを見るまでは、死ねないなあ」と次なる目標に向かって暮らしています。かつての鬼刑事も今では好々爺です。

親子なので面と向かってはなかなか言えませんが、尊敬する親父、愛すべき親父です。その父と、父とのご縁で兄吉良州司を温かく支援して戴いているみなさんに改めて感謝致します。

吉良 卓司



人たちに受験的な勉強を教えるという以上に、そういうことを教える教師を公立だからこそ配置する必要があるんじゃないかな（「その通り、いい質問だ」と発言する者あり）。そういう意味で、私は、高等教育機関への進学率を現在の40%から80%にする目的やよし、けれども、そのためには、進学して人生の幅を広げる、将来の選択肢を広げるという導き手が要ると思っています。

そして、学力が向上しないまま、（現在の学力で）行けるところに行く、それだけで本当に貧困から脱却できるんだろうかと疑問を持ちます。今でも、大学を出た人の中でも、俗に言う非正規社員など、大学は出たけれども低い収入で甘んじている人たちがたくさんいる。だからこそ、奨学金も返せないと状況になっているわけです。

そういう意味では、貧困の連鎖を断ち切って、貧困から脱却するためには、大学等高等教育機関に行く前に、まずは学力を高めること。そして、もっと勉強することによって、進学することによって、人生の幅が広がる、貧困から脱却できるという動きができる人を公立学校に配置する、そのことが重要なんじゃないかと思います。再度、私のこの問題意識についての大臣の見解をお聞きします。

#### 柴山国務大臣

ありがとうございます。本当に、さっき義家先生からも御発言がありましたが、大学の無償化以前の段階で、貧困の連鎖によって学びの重要性というものを体感できない、学ぶ意欲すらない、そういう方に対して、鼓舞したり、指導したりするようなことが本当に必要なんだということを学ばせていただきました。ですので、例えば修学支援などについても我々検討していますが、ではソフトとしても、そういう人材をどうやって確保するか、引き続き検討していきたいと考えております。

#### 党派を超えて教育予算増額の活動を

##### 吉良委員

ありがとうございます。

前回、学力を高める仕組みをつくり、そこで学力を高めて、地方の活性化にもつながる地方国立大学の授業料・入学金の無償化をやるべきだと言いました。そして、私学に対しては、独自の入学金・授業料減免措置をもっと拡充できるようにこの予算を使うべきだと指摘しました。でも、財源が消費税である限り、

これを今使えません。

これは大臣に質問というよりも、この文科委員の方々全員、特に与党の方にお願いをしたいのですが、「社会保障にも資する教育費については消費税の使途対象にする」ということを、ぜひ、議員立法になるのか、それとも、柴山文科大臣に汗をかいちていただいて政府内を説得して、閣法として出してもらうのか、この文科委員全体で、その思いを共有して実現に向けていきたいと思いますので、今後相談させてください。

#### 社会に出て必要とされる能力とは何か

先ほど来、私自身は学力向上が大事だと申し上げています。お断りしますが、私は、いわゆる暗記的な学力というものが人生を決することは思っていません。私は、社会に出て重要なのは、学力よりは人間力、人間としての総合力、人としての信頼感や判断力や決断力や問題解決能力の方がはるかに重要だと思っています。

面白い例を上げます。私は、元日商岩井（現双日）という総合商社で採用担当をやっておりました。内定を出すまでは全て面接で、筆記試験は一切行いません。そして、内定者を集めて筆記試験をやります。どういう結果が出ると思いますか。筆記試験の結果は、世に言う偏差値通りですが、面接での評価は全くばらばらです。私が追跡調査をしているわけではありませんが、22年間会社にいましたので、自分が採用した学生のその後の活躍を見ることができるわけです。活躍度合いは、筆記よりも面接試験の評価の方がはるかに反映されていると言えます。そういう意味でも、人生、特に社会に出てから必要なのは、学力よりも人間力だと確信を持っているんです。それでも、一定の知識を含むある程度の学力は必要だと思っています。その理由について大臣と議論させてもらいたいと思います。

今、我が国や他の先進国で格差が問題になっています。格差は、何が原因で生じていると思いますか。

#### 拡大する格差の原因

##### 柴山国務大臣

その問い合わせる前に、ちょっと先ほどの答弁の補足をさせていただきたいと思います。

低所得者、中間層の世帯生徒に対する、先生が御指摘になつた

中学校や高等学校の学力向上支援、このために消費税の使い道を閣法なり議員立法でまず変えるという御指摘も御意見としていただいて、それはおっしゃるとおり、超党派で何らかの法改正が必要なかなと思いますが。そういうことを仮にしなかったとしても、我々として、やはり貧困による教育格差の解消のために、例えば、大学より前の段階において、教員定数の加配措置ですか、補習等のための外部人材の配置に対する支援などに取り組んでおりますし、また、地域においては、学習がおくれがちな中学生や高校生などを対象に、退職教員や大学生などの地域住民等の協力により実施する原則無料の学習支援である、地域未来塾、こういったことも推進をするなど、多様な活動を推進することとさせていただいております。

いずれにいたしましても、そういう取組をしっかりとしなければいけないと考えています。済みません、これがまた補足です。

そして、その上で、今御質問にあった、では生活水準における格差というものの根本的な原因は何だろうかということですが、いろいろ考えられます。就労の状況ですかさまざまの要因が考えられますが、やはり経済状況が困難な家庭の子供ほど大学等への進学率が低いという状況にあると思いますし、また、最終学歴によって平均賃金が異なるという厳然たる実態もあります。そういったことも含めて、我々としては、そういった格差を解消するため、学びたい人にしっかりと学びの機会を与えるということが必要だと考えております。

#### 頭脳の投入量が収入を決める時代

##### 吉良委員

大臣の前半の補足答弁、ありがとうございます。是非力を入れて戴きたいと思いますが、私は、ボランティアに依存するのも限界があると思っています。全国的に展開していくためには、やはり大規模な予算措置を含めた支援が必要です。今の大臣の答弁は高く評価しますが、それをもっと大規模に、全国レベルでやるために予算獲得が必要だと私から付言させて戴きます。

格差については、大臣の答弁もそのとおりだと思います。ただ、私に言わせると、特に先進国において格差が広がっている。かつて中間層と言われた人たちがだんだん下に落ちてきている。そして一億総中流だった人たちのほんの一握りが富裕層になってきている。それはなぜか。先進国における付加価値というか、働いた成果の源泉は、かつては筋力の投入量だった。だから、頭数を投入するとか、より力強い人たちを投入することが生産の向上につながっていた。それが今は頭脳の投入量に変わっています。よくいわれる、小泉・竹中時代のジャングル的な新自由主義が格差をもたらしたとの議論に私は与しません。筋肉の投入量から頭脳の投入量に変わった。筋肉の投入量だと、私みたいな痩せ人間と横綱白鵬の違いは、せいぜい二十倍とかの差。私が二十人集まれば白鵬に勝てるかもしれない。けれども、（アップル社創業者の）スティーブ・ジョブズなど天才的な人の頭脳は、何億人分、何千万人分の付加価値をつくり出します。

かつての日本は、ブルーカラーも額に汗して働けば、ホワイトカラーに遜色ない生活ができた社会でした。しかし、頭脳の投入量が生産性を決めるようになってからは、幾ら頑張って

も、筋肉の投入だけではなかなか収入が上がらない。そして、機械化とグローバル化とIT化が格差を助長していると思ってます。多くの子供たちが知的生産に携われるようにしていかない限り、貧困の固定化、貧困の連鎖を断ち切れない。だからこそ、私は、学力を向上させるところにもっとお金も能力も使いましょうどこだわっているんです。（柴山国務大臣「そのとおり」と呼ぶ）大臣もそのとおりと言っていますが、見解を求めます。

#### 教育が一番大事との認識を共有すべき

##### 柴山国務大臣

全く同じ価値観だと思います。野党のことについてコメントする立場はありませんが、まさしく、所得の再分配じゃないんですね。今の経済とか産業を見ると、明らかに構造自体が変わってきていて、要するに、まさに教育の格差が富の格差につながっている。だからこそ、我々は、社会に生じるあらゆる問題を解決するためにはやはり教育だ、そういう認識を与野党を超えて共有しなければいけないと考えます。本当に、大臣になつてからそういう確信を最近持ってきておりまして、だから、そのために、教育の機会に恵まれない方にいかに教育の機会を確保するかということに我々が共通して取り組まなければいけない課題だと考えています。今、学歴によって平均賃金が大きく変わってくるということも、非常に大きな真実であろうと思っていますので、何とか貧困の連鎖を防ぐために、教育の機会をしっかりと確保していく、ここを我々は真剣に取り組んでいかないと、省庁においていろいろな対策を立てても、そこの根本ができていないといけないんだろうと最近は確信をしています。

##### 吉良委員

ありがとうございます。大臣も本当に気合いが入って、教育が一番大事だということで。大臣は再分配じゃないと言いますが、私は、再分配と教育の強化、これは車の両輪だと思います。今、社会が変わりつつあるときですから、俗に言う激変緩和も大事なので、再分配と教育強化、この二つの両輪が必要だと思っています。<中略>

もう時間が来ました。これだけのお金を使うなら、学生の質を高め、教育機関の質を高める、そこにまっしぐらに向かうべきだという思いからの提案です。以上で終わります。



※本議事録の委員会とは別の日の写真です



# 文部科学委員会議事録

2019年 4月17日

## 低所得世帯の高等教育機関進学支援 貧困の連鎖を断ち切るために必要なことは何か

### 低所得世帯修学支援法は究極目的に寄与しない

亀岡委員長

次に、吉良州司君

吉良委員

国民民主党の吉良州司です。今日は、一般質疑の場ですが、先日衆院を通過した低所得者世帯修学支援法をよりよきものにするために、再度この場でも取り上げさせてもらいます。なぜかと言いますと、同法の附帯決議の中で「施行後四年の見直し時期以前であっても、この支援のあり方について検討する、そして必要があると認められる場合には早期に対応せよ」ということを決議しているわけです。つまり、同法は四年を待たずして検討することがこの委員会で決議されたわけです。それゆえ、よりよきものにしたいという思いで、質疑をさせていただきます。

前回の質疑で、私の方から柴山大臣に、この法は社会保障政策ですか、教育政策ですかとお聞きしました。この法案の悩ましいところは、8%から10%への消費税上昇分を財源とする。だから、実質は教育政策だが、消費増税分を使うからには、社会保障政策という名目がなければ使えない。したがって、住民税非課税世帯を代表とする貧困家庭、それに準ずる家庭への支援、それに加えて、人口減少、少子化対策にも資するという名目をつけざるを得ないと理解しています。

私自身は、この法は社会政策であり、社会保障政策であり、そして教育政策もあると思っています。大臣、再度お聞きしますが、修学支援法の究極の目的は何でしょうか。あえて究極という言葉を今回も使わせてもらいます。

柴山国務大臣

本法案の目的は、真に支援が必要な低所得者世帯の者に対して、社会で自立し、及び活躍することができる豊かな人間性を備えた創造的な人材を育成するために必要な質の高い教育を実施する大学などにおける就学の支援を行い、その経済的負担を軽減することによって、子供を安心して生み育てることができることに寄与する環境の整備を図り、もって我が国における急速な少子化の

進展への対応に寄与することあります。

### 究極の目的は貧困を固定化させないこと

吉良委員

今の答弁は、財源を消費税にしていることから、そのラインは絶対外せないと理解しています。ただ、柴山大臣自身が前回の委員会で答弁されていたように、私は、究極の目的は、貧困を固定化させない、貧困の連鎖を断ち切る、貧困層を階級化させない、これが究極の目的だと思っています。

前回も、この法案が必ずしも私が言う究極の目的に資するとは思えないと申し上げました。大臣、住民税非課税世帯の高等教育機関への進学率は、文科省情報によると、ざっと4割、そして一般家庭については大体8割なので、一般家庭の半分の進学率だということです。そして今回は、法案の中身の具体策を講ずることによって、一般家庭並みの進学率まで持っていきたいと。だから予算についても、8割まで進学するという前提で組まれていると承知しています。大臣、本当に、今回の具体策を講ずることによって40%から80%に引き上げができると信じておりますか。

柴山国務大臣

家庭の事情にかかわらず、本人の意欲があれば進学できる社会を実現し、格差の固定化を解消することは、今委員がまさに御指摘のとおり、今回の措置の大きな目的の一つであります。低所得者世帯の進学率が、全体の進学率8割まで上昇することができ、その重要な指標と考えておりまして、今回の支援措置によって学生数が増加をした場合にも、要件を満たす学生が支援を確実に受けるために必要な財源を確保する観点から、最大の見積りをしていると捉えていただきたいと思います。

### 進学の意味を見出せない貧困家庭の環境

吉良委員

大臣の答弁について理解はします。しかし、私が、究極の目的である、貧困層を固定化させない、連鎖を断ち切ることに寄与

しないと申し上げる理由は二点あります。

資料をご覧ください。その第一に、公立中学、公立高校の補助教員を配置する、その場合に、全学年に5人ずつ配置し、年間一人当たりの費用を二百万円と見込んだ場合に3868億円必要と試算しました。一学年5人のうち、例えば2人ないし3人は、いわゆる授業についていけない子を下支えする補習授業的なもの、そして2、3人については、進学するために勉強したいと思う子のための補助教員配置です。しかし、もっと大事なことがあります。それは、貧困家庭の場合は、学習する意欲、進学する意欲、進学のために勉強しようという意欲をなかなか持ち得ない家庭環境であることが一番大きな問題だと思っています。

前回、ある時点の学力はどういう構成要素があるのかと質問しましたが、答弁には納得せず、私の持論を展開させてもらいました。それは、一つには親からの遺伝的なもの、そして努力度、そして家庭環境だと。家庭環境によっては、努力しようにもできない環境がある。もっと重要なことは、学習してどうなる、進学してどうなる、大学に行ってどうなる、ということを思い描けない人たちが多い、そういう家庭環境があることです。そして、そういう家庭環境の子供たち同士が仲よくなってしまうという環境もあります。

ある新聞記者のブログを読みました。真摯でエリートで人間的には非常にいい知り合いの人が、自動車教習所に行った後、「普通に生きていたら接点のない微妙な人たちと時間と空間を共有する貴重な機会ですよね、僕たち、会ったことがないよね、みんな、ふだんどこにいるのという感じだよね」とその同意を求めてきたことに対して、ブログを書いた新聞記者は、曖昧なつくり笑いでやり過ごしたと。なぜなら、その「どこにいるの」という社会階層で自分は育ったと。大学に進んだ方が将来の選

**提出資料 委員会に提出した「吉良州司の独自の具体的提案内容」**

### 低所得世帯の生徒の学力向上と進学を真に支援するための具体策

#### 1. 公立中学、公立高校の補助教員の配置に関する必要予算措置額

〈前提〉 全国の公立中学9421校と全国の公立高校3473校の合計12894校に1学年5人の補助教員を配置。一人当たり補助教員の年間費用(人件費込)を200万円とする。補助教員には、退職教員、教員免許保持者で正規に教員採用されていない教員候補者、放課後授業専門(例えば、15時から21時勤務)の正規教員、場合によっては塾講師、などを想定。一人当たり年間費用については柔軟な運用を可能とする。

$$12894 \text{校} \times 3 \text{学年} \times \text{各学年5人} \times \text{一人当たり} 200 \text{万円} = 3868 \text{億円}$$

#### 2. 国立大学の入学金・授業料の減免に関する予算措置額(推計値)

- (1) 全国立大学の入学金・授業料無償化の場合 2646億円
- (2) 3大都市圏と旧帝国大学を除く国立大学の入学金・授業料無償化の場合 1702億円

#### 3. 当該予算7100億円(国の負担分)と上記ふたつの提案の差額分(1530億円)の用途

- (1) 専門学校の内、看護師、保育士など社会的ニーズの高い分野の入学金・授業料減免
- (2) 大学(国立、公立、私立)の既存の入学金・授業料減免措置の拡充
- (3) 住民税非課税世帯生徒の中で、3大都市圏や旧帝国大学に進学する者への給付型奨学金支給

肢が広がるというような絵が描けない。貧乏であることは一つの構成要素ではあるけれども、重要なのは環境だと。具体的には、周囲にはロールモデルがなく、コミュニティ内部に人生における広い選択肢を提示するメカニズムがない。選択できないのではない、そんな選択肢自体が思いも寄らないのだ。幾ら、今40%の貧困家庭の進学率を高めるための制度をつくったとしても、その情報に接することができない、それを聞いたとしても、何の意味があるのかわからない層がいるということです。

断っておきますが、私は社会の縮図となっているような小学校、中学校で育ちましたので、生身の貧困層、家庭というのをよく知った環境にいました。

注意が必要なのは、文科省の事務官全員とは言いませんが、多くのエリートと言われる人たちが、話には聞いたことがあるが、自分の小学校、中学校、特に有名私立や国立の高校時代や、それ以降、実際に生身の貧困層と接したことのない人がたくさんいるということです。

### 勉強、進学により、人生の幅が広がり、 貧困から脱却できることを導ける教師が必要

だから、制度をつければ、貧困層が、経済的負担なく行けるのなら、その制度を利用しようとするだろうと思っている。しかし、実際はそうじゃない人たちがたくさんいる。だからこそ、学力を高め、進学する必要性を説き、よりよい高等教育機関に行くことによって人生の可能性が広がるんだ、選択肢が広がるんだ、貧困から抜け出せるんだ、ということを指南する教師が必要だと思います。

授業についていけない子供たちを補助するとか、進学したい



もお話が出たように、教師が今抱えている業務が余りにも過大である。それぞれの教師が、自分の理想や信念に従った形での教育の展開、そして子供と向き合う時間をしっかりととることができないことが最大の、目先の大きな隘路になっていると考えます。

### 教員増員、待遇改善、実務家教員活用が急務

吉良委員

大臣が答弁されたとおり、現場の教師の負担が余りにも大きくて、子供たちに多くの時間を割いて、また余裕を持って向き合いたいのに、その余裕がないというのが、最大の問題だと思います。それと、私の大分の教師たちの話を聞くと、外国人労働力の受け入れ問題じゃないですが、教師の世界でも、既に人手不足に陥り始めている。特に、小学校、義務教育の教師は女性が非常に多いので、どうしても女性は出産休暇というものがある。そのときに、代用教員の補充をしようにもそのなり手がない。あと5年、10年すると、その教師不足が危機的な状況になっていってしまう。教師の負担が大きいことと、教師不足になりかけていることが現場の最大の課題だと思っています。では、それを克服するにはどうしたらいいのか、当然のことながら、それでも教師を増やしていくなければならない。なり手がないのであれば、待遇をよくする。給与面もそうかもしれませんし、やりがいという面でももっと大きなインセンティブを与えていかなければいけないかもしれません。そのためには物すごい予算が必要です。

先ほど来言っています、柴山大臣にリーダーシップを發揮してもらいたいというのは、自民党政権がつくる予算を見てみると、ほとんど前年度比差異がない。しかし、皆さんから批判を受ける、政権運営経験の少なかったあの民主党政権でさえ、四苦八苦しながら、一番大事なのは子供たちだということで財源を捻出しようとしたわけです。その意味では、今、大臣が、この文科予算を他の省庁から分捕ってきても、又は国民に対して新たな増税をお願いしても、この教育予算を増額する、そのことを、将来リーダーになる大臣に期待しているんです。与党質問じゃないですが、どうですか、大臣、その決意は。

柴山国務大臣

何とお答えしたらいいかよくわからないんですが、ただ、今御指摘の問題意識については強く共感をしておりまして、私は、このタイミングで文部科学大臣を抨撃したことが非常に大きなりがいでありチャンスだと思っているのは、私、これまで、ともすると、やはり行政改革ということで、それこそ削減とかそういう

う話に取り組むことが多かったんですが、今このときに、文部科学行政の将来の日本における非常に重要な局面を考えると、これを、もちろん質を伴った形でありますけれども、しっかりと拡大していくということが極めて重要だと思っておりまして、そういう意味で、私にどれほどのことができるかわかりませんけれども、多くの、野党の皆様も含めた議員の方々の御理解をいただけて、また、官邸のような、要するに省庁横断のマネジメントのところにも働きかけて、そこにしっかりと政策の方針転換というか、やはり重要性の考え方の見直しということを働きかけていきたいと思っております。

吉良委員 ありがとうございます。

5%削減ではなくて50%削減の意識改革と、根本から変えるという思いを持って、文科予算については、削減ではなくて増額していくということで、リーダーシップを發揮していただきたいと思います。それでもやはり、財政健全化の問題を考えると、工夫はしていかなければいけないと思います。その際に、いわゆる正規教員をふやすということも一方の道です。それはそれでやらなければいけない。一方で、私の問題意識としては、有料ボランティアといいますか、その職について、その給料でもって生活を支えていくのではない、けれども自分の専門性や経験を提供して幾ばくかの給料をもらうという形の教員、実務家教員ですね。プロの教師をアカデミック教員とするならば、実務家教員には、それをなりわいにする教員あってよし、そして例えば、60歳を過ぎて、一度は退職して、食うに困るわけではないが、専門性と経験を生かして教育現場で頑張ってもらう、こういう考え方もあると思っていますが、いかがでしょうか。

柴山国務大臣

今おっしゃったとおり、いわゆるコアな意味での教員ではなくても、免許状は持っていないけれどもすぐれた知識経験を有する社会人などを教員として迎え入れるということは、学校教育の多様化、新しいニーズへの対応ということに極めて重要だと思っております。実は、新しい学習指導要領においても、社会に開かれた教育課程を掲げまして、地域の人的資源等を活用し、社会と共に、連携しながら実現をさせるということが書いてあります。そしてまた、先日、ちょっと手前みそですけれども、私から発表した、「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて 柴山・学びの革新プラン」というものを発表させていただきましたが、そこにおいても、教育の質を向上させるために、ICTの利活用に加えて、すぐれた外部人材の積極的登用ということも書かせていただ

いております。今後、各地域の課題や運用状況を伺いながら、外部人材のさらなる活用に向けて、また、より弾力的な免許状制度のあり方について検討を進めていきたいと考えております。

吉良委員

その方向性を私も支持します。一例なんですが、私が勤めていた商社のOBは、地理の先生をやらせたら、むちゃくちゃおもしろい授業をやると思います。授業というのはやはり子供が食いついてこなきゃならない、子供がいろいろなことを想像できなければなりません。今の地理の授業だと、例えばアメリカ西海岸のシアトルあたり、そこは何産業が盛んかとなったときに、味気ない、航空機産業で終わりなんです。ところが、仮に私が教師をするとなれば、どういうふうな授業をするかというと、「おまえたち、飛行機に乗ったことあるか」と聞いて、あるあるあると。じゃ、飛行機をつくる会社を知っているかと言ったら、男の子の中には、ボーイングとか、エアバスとか、そう答える子供たちが出てくる。そうなんだ、ボーイングはな、このシアトルに本社があって、大分空港の何倍もあるような敷地で飛行機をつくっているんだ、こういう話をします。おかげに、おまえたち、パソコンやるだろう、実は(マイクロソフトの創業者)ビル・ゲイツは、このシアトルのちょっと横にベルビューという町があって、そこがマイクロソフトの発祥の地なんだ、こういう話をつなげていくんですね。

航空機産業と言ったら、平面、二次元の世界で味もそっけもなく、つまらない。しかし、そこにボーイングという具体的な飛行機の像ができて、そして、大分空港の何倍もあるんだという想像を膨らませて、おかげに、ビル・ゲイツはそこだったんだとなると、どんどん子供たちが興味を持っていく。そういう意味でも、いろいろな社会経験を持った実務家教員というのには有益だと思っています。大臣、いかがですか。短く。

柴山国務大臣

今おっしゃったように、個別の具体例を挙げることによって、もちろん地理もそうかもしれませんけれども、歴史においてもそうだと思います。さまざま昔の例ええばエピソードとかストーリーをわかっている方がそれを教育することによって、より深く、また単なる暗記にとどまらない、また児童も関心をより持てる教育をしてもらえるという意味では、さまざまなバックグラウンドを持った教員の方に活躍をしていただくというのが極めて有効だと思っています。

<中略>

### 現場を信じて、現場に任せよ!

吉良委員

時間がなくなってきたので、私がこの場で申し上げたいことは、学習指導要領があり、それを教えるながらいろいろな子供たちのニーズに応えていくということで教師は大変だと思いますが、もっともっと柔軟に、現場を信じて、現場に任せて戴きたいと思います。子供たちは、極端な話すると、指導要領を全部網羅しなくとも、おもしろいと興味を持ったら自分でそこまで行く可能性もあると思っています。そういう意味で、とことん興味を持たせる仕組み、工夫が必要だと思います。実は、私の三人の娘たちが、アメリカ駐在時代、三人全部合わせると保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校に行っていたんですが、これはおもしろいなという教育事例が幾つもありました。

その中の一つで、娘が行っていた小学校の授業です。そこは、三

ヶ月に一回ぐらい、何とか週間というのを設けて、二週間ぐらいその一色に染まるんです。例えば、宇宙週間となれば、ハイライトは宇宙飛行士が来て宇宙のおもしろさを教えるし、宇宙についてのTシャツのデザインを子供たちに要求して、誰かのものを採用したり、宇宙、宇宙、宇宙一色なんです。

また、地理週間があって、その地理週間における娘の課題は、ニューヨークを出発して世界三つの大陸を旅行してこい、そして毎日日記をつけろというものでした。もちろん、その旅行は仮想の旅行ですよ。移動する際、飛行機を使った場合は時速500マイル、列車を使った場合は時速100マイル、郊外を車で行くときは60マイル、町中だと40マイルとなるということを課すんです。娘が選んだ最初の土地はパリでしたが、パリまで何マイルあるか調べて、時速500マイルだから何時間かかるということを調べる。日本の学校では、テストがあるから、時間だ、時速だと勉強しますが、どういうふうにそれが生きるのか、まだ小学校の中学生だとわからないですよね。だけど、そういう具体例があると、こうやって、速度が速いともっと早く着くんだとか学ぶんです。おかげに、パリに行ったら、凱旋門に行きました、凱旋門とはどんなものか、一生懸命調べて、毎日日記を書くんです、ベルサイユ宮殿に行ったらベルサイユ宮殿のを。二つ目はアフリカ大陸。エジプト・カイロだったですけれども、ピラミッドとはどんなものか、一生懸命日記を書くんです。夜中の一時になろうが、おもしろくて寝たくない。おかげに、地理以外にも算数や歴史・文化など、いろいろな教科が全部詰め込まれているんですよね。だから、子供たちは、具体像が頭の中に浮かんで、おもしろいと思ったらとこなんやついていく。そういう意味で、今私が紹介したような、何とか週間に限る必要はありませんが、どうやったら興味を持つかというのを現場にとことん勉強してもらって、研究してもらって、それを思い切って文科行政として実践してほしいです。いかがでしょうか。

柴山国務大臣

今、学習指導要領についてお触れになられましたけれども、新しい学習指導要領では、まさしく、子供たちが学習内容に興味を持ち、教科等を学ぶ意義を理解できるよう、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めるとともに、各教科などにおいて、みずから課題を設定、解決していくという探求的な学びを重視しているところであります。先月、私、福島のふたば未来学園というところに行って、そこで授業を実際に見てまいりましたけれども、まさしく、主体性ということ、それから実践性、探求性、この二つがやはり子供たちの関心を呼び起し、積極性、そしてプレゼン能力の飛躍的な向上につながっている、そういう事例を目の当たりにいたしましたので、そういう新しいタイプの指導要領や教育の好事例について勉強するとともに、しっかりと横展開をしていきたいと考えております。

吉良委員

ありがとうございます。  
とにかく現場を信じて、現場自体の裁量をふやすことによって現場も成長していく、結果的には子供の興味、子供の人格形成、学力向上につながるということで、現場を信じてより多くの裁量を任せいただきたいということをお願いいたしました、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。



亀岡委員長 次に吉良州司君。

吉良委員

吉良州司です。今日は、総理の信任も厚く、将来の日本を担うリーダーとして活躍されている柴山大臣に、文部科学省所管領域の中で強いリーダーシップを発揮してもらいたいという思いも込めて、質問をさせて戴きます。<このあと、直前の自民党議員の質問に共感する形で、英語教育につき海外経験を踏まえて持論を展開するも割愛>

柴山国務大臣

海外駐在の御経験も長い吉良先生に大変示唆に富むお話を伺わせていただき、ありがとうございました。<このあと柴山大臣から前向き答弁あるも割愛>

### 政治家の最大の使命は明確な優先順位付け

吉良委員

前向きな答弁、ありがとうございます。それでは本論に入りますが、委員の皆さんには、吉良の質問なんていうのは書生論じないかとか、余りにも大ざっぱじゃないかという批判も受けるかもしれません、文科行政の重要性に鑑みた質問をさせていただきたいので、よろしくお願ひします。

まず、大臣、公認会計士は会計のプロ、大臣自身は弁護士として法律のプロですが、政治家は何のプロでしょうか。

柴山国務大臣

ぱっと頭に浮かんだのは選挙のプロという言葉なんですが、ただ、それは政治家の資質ということではなくてデーリーワークのことだと思いますので、そうではなくて、政治家というのは、民意をしっかりと吸収して、それに基づき国家マネジメントをするということだと思いますので、やはり、民意の吸収そしてそれに対する働きかけ、マネジメントのプロだと思います。

吉良委員

大臣おっしゃるように、(衆議院は)英語で言えばハウス・オブ・リプレゼンタティブですから、代表として民意を吸収するということも極めて大事だと思います。私の持論を言わせていただくなと、政治家は優先順位をつけるプロだと思っています。今おっ

## 子どもの教育こそ最優先

政治家の使命は明確な優先順位付け!  
現場を信じて、現場に任せよ!

2018年 11月28日

しゃった民意吸収も大事ですが、このことが大事だ、とある人たちは主張する、別の人たちは、いや、これの方が大事だからこれをやってくれ、この予算を多くつけてくれ、などと、いろいろな人がいろいろなことを言ってくる。それでも、一方では、民意をきちんと踏まえ、でも、自分の哲学、自分の信念等を加味しながら、誰が何と言おうと一番はこれ、二番はこれ、苦しい中で優先順位をつける。そして、なぜこれが一番なんだということを、国民にきちんと説明、説得する。そして、それを実現するということになれば、時に妥協し、時に貸し借りという関係をつくりながら、どんな形をとってでも合意形成して実現していく。これがプロの政治家だと私は思います。いかがでしょうか、大臣。

柴山国務大臣

ありがとうございます。そういう意味では、民意の吸収の後、やはりガバナンスをする、そして、しっかりプレゼンテーションしていくというプロセスが大事だと思っていて、そのガバナンスの過程において、今おっしゃるように、結局、政策というのは、いろいろな声を調整して一つのものに練り上げていく必要があり、いろいろな人を使ってそれを実現をしていくということが必要なわけですから、そういう意味では、決断をし、そして大きな方針のもとにそれを実行に移していく。その結果を、選挙でまた民意を問うということだと思いますので、おっしゃるとおりだなと思います。

### 子どもの教育こそ、我が国の最優先課題

吉良委員

その上で、今我が国が直面する最大の課題は何で、それを克服するために、最優先すべき政策は何なのか、大臣の見解を伺います。

柴山国務大臣

非常に大きな御質問かと思いますが、確かに、大きな課題と言われば、最初に頭に出てくるのは少子高齢化社会における日本の活力ということだと思いますし、あと、グローバル化が極めて進んでいると思いますので、その中でグローバル化社会にどう対応していくか。そのあたりがやはり非常に大きな課題だ

と思います。

少子高齢化が進んできているから、人手不足対策とか生産性革命、ソサエティー5.0ということも必要になってくるわけですし、グローバル化に必要だからこそ、使える英語をどうするかとか、そういうことも出てくるのかなと思います。

吉良委員

私自身も、我が国が抱える最大の課題は人口減少であり少子化だと思います。そして、大臣まさにおっしゃるように、それに伴う将来不安や活力の低下が懸念される。これが最も大きな問題だと思います。それだからこそ、今我が国として最優先すべきは子供たちの頭の中、人格形成に対する大胆な投資です。そしてまた、子供たちを育てている子育て世代への大胆な投資。これが何よりも大事だと私は思っています。だから最初に、政治家は何のプロかと質問しました。今、大臣はまさにその任についておられます。そういう意味で、本当にリーダーシップを發揮してもらいたいと思うのです。

その上で、ちょっと一回脱線するように見えますが、文科予算を削れということではなく、私は逆の増やせという立場であります。例えば、コストを5%削減するのと50%削減するのと、どちらが難しいと思われますか。

柴山国務大臣

大変おもしろい御質問だと思います。一概には言えないんじゃないでしょうか。というのは、5%というと、やはりどちらかというと微調整の範疇になってくるのかなと思います。やはりいろいろな調整をして、優先順位づけを結構シビアにしていくというのが5%の予算削減だと思いますが、50%というと、恐らく解体的な事業の統廃合のようなこともしていかなくちゃいけないでしょうから、政治的決断とか、トップレベルでの大胆な大なたという意味では非常に難しいんだけれども、それを決断する過程というのは、どちらかといえばより短いプロセスでできる場合があると考えているので、それは一概には言えませんが、そういった傾向があるのではないかと思います。

### 明確な優先順位付けの象徴だった 「民主党政権時代の子ども手当」

吉良委員 ありがとうございます。

微調整という言葉を使われましたが、私に言わせると、5%削るというのは、それに関わる人たちの意識は全く変わらず、既存のシステム、仕組みも変えない中で、100を95にするために努力するということです。それというのは、意識も変わっていない、仕組みも変わっていないから、例えば、同じ省庁の課の中でとか、同じ会社の課の中で、俺たちはここまで削って頑張っているのに、そこは、ゆるゆるで何してるんだ、みたいな話になって、なかなか進まない。ところが、50%削れということになると、ゼロから変えざるを得ない。意識をまるっきり変えて、仕組み、システムもまるっきり変えてやらざるを得ない。しかし、一旦、意識を変えよう、そして、組織の仕組みを根底から変えるという決断さえでき、なぜそういう決断をするかということを社員に受け入れてもらえば、案外、50%の方が楽にできると思っています。

大臣になかなか複雑な問題をお聞きしますが、(私は)民主党政権に(深く)かかわっていました。そのときに民主党は、子ども手当を提唱しました。柴山大臣は、この民主党政権時代の子ども手当についてどう評価していたか、また今どう評価しているか、お

聞かせいただけますか。

柴山国務大臣

実をいいますと、子育てのために大胆な給付政策をとるべきだということは、私は一概に反対するものではありませんでした。ただ、さっきも教育負担軽減に富裕層をどう扱うべきかという議論も出てきましたけれども、本当にお金持の人に、しかも代理受領でなく現金給付で巨額の手当をするのがいいのかどうかというところについては、私は疑問を挟んでいたところであります。

吉良委員

実は、私も当時、民主党政権にいた中で、いわゆる所得制限についてはあってもいいのではないかと思っていました。ただ、私が何で今、5%と50%、そして民主党政権時代の子ども手当の話を持ち出すかというと、あのときの民主党政権は、人への投資、チルドレンファーストという言葉を使い、有権者の数からいって圧倒的に高齢者の方が多いのに、それでもあえて、子供の方が大事なんだということを訴えたんですよ。

私は、民主党政権成立と同時に外務大臣政務官として政府に入りました。柴山大臣がその直前の政務官でしたよね。外務省は、お金のかかる条約を全部見ていて、これは本当に日本の国益になるのか全部精査して、事業官庁でもない外務省までもが、何かを削って子ども手当に回そうとしていたんです。あのとき、ほぼ全省庁の政務三役は、自分の省庁の何かの予算を削って子ども手当の財源を捻出しようとしていました。これは、申しわけありませんが、それまでの自民党政権ではなかったことです。

だから、そういう意味で、5%と50%の削減の話じゃないですが、そこまで頭を切りかえて、各大臣は、それぞれの省庁の利益代表者ではない、政権全体で何が大事なんだという優先順位を明確にして、その優先順位一番のためには、全省庁がその実現のために力を尽くすという体制を築いたんです。

経験不足から政権運営は稚拙で、民主党政権はだめだったと言われますが、私は、そういうやり方、考え方については今でも誇りを持っています。そういう意味で、今度は5%削減とかじゃなくて、柴山大臣には、今言った将来を担う子供たちのために本当に強いリーダーシップを発揮してもらいたいと思っています。その前提として、今教育の現場が抱えている最大の課題かつ喫緊の課題は何でしょうか。

柴山国務大臣

現場が抱える喫緊の課題というと、先ほども少し吉良議員から

